

官報

號外

昭和八年三月十日

○第六十四回衆議院議事速記録第二十四號

帝國議會

昭和八年三月九日(木曜日)

午後一時二十分開議

議事日程 第二十三號

昭和八年三月九日

午後一時開議

第一 醫師法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第二 齒科醫師法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第三 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第四 樺太地方鐵道補助法中改正法律案(政府提出)

第五 小作調停法中改正法律案(牧野賤男君外九名提出)

第六 借地借家調停法中改正法律案(牧野賤男君外九名提出)

第七 刑事訴訟法中改正法律案(原夫次郎君外九名提出)

第八 刑事訴訟法中改正法律案(原夫次郎君外十名提出)

第九 民事訴訟法中改正法律案(中野勇治郎君外九名提出)

第十 度量衡法中改正法律案(山下谷次君外二名提出)

第十一 度量衡法中改正法律案(武知)

勇記君外五名提出) 第一讀會

第十二 度量衡法中改正法律案(野田文一郎君外一名提出) 第一讀會

第十三 簡易森林火災保險法案(小太郎君外十七名提出) 第一讀會

第十四 營業收益稅法中改正法律案(木暮武太夫君外二名提出) 第一讀會

第十五 大正十五年法律第五十二號中改正法律案(土地區劃整理ニ伴フ清算金ニ關スル件)(安藤正純君外五名提出) 第一讀會

第十六 速記士法案(金井正夫君外二名提出) 第一讀會

第十七 速記士法案(中山福藏君外三名提出) 第一讀會

第十八 穀類搗精製粉取締法案(荒川五郎君外二名提出) 第一讀會

第十九 古物商取締法中改正法律案(山本芳治君外二名提出) 第一讀會

第二十 地方鐵道及軌道ニ對スル地方稅免除ニ關スル法律案(本多貞次郎君外一名提出) 第一讀會

第二十一 地方鐵道及軌道ニ對スル地方稅免除ニ關スル法律案(鶴澤宇八君外三名提出) 第一讀會

第二十二 衛生組合法案(野田文一郎君外四名提出) 第一讀會

第二十三 衛生組合法案(上田孝吉君外十四名提出) 第一讀會

第二十四 衛生組合法案(田中祐四郎君外六名提出) 第一讀會

第二十五 傳染病豫防法中改正法律案(野田文一郎君外四名提出) 第一讀會

第二十六 傳染病豫防法中改正法律案(上田孝吉君外十四名提出) 第一讀會

第二十七 傳染病豫防法中改正法律案(田中祐四郎君外五名提出) 第一讀會

第二十八 少年教護法案(荒川五郎君外六十六名提出) 第一讀會

第二十九 國務院創設ニ關スル決議案(野田文一郎君外四名提出) 第一讀會

第三十 決議案(教育ノ根本的改革ニ關スル件)(富田幸次郎君外十七名提出) 第一讀會

第三十一 決議案(思想惡化ノ對策ニ關スル件)(櫻内幸雄君外十七名提出) 第一讀會

第三十二 決議案(思想惡化ノ對策ニ關スル件)(櫻内幸雄君外十七名提出) 第一讀會

第三十三 決議案(思想惡化ノ對策ニ關スル件)(櫻内幸雄君外十七名提出) 第一讀會

第三十四 決議案(思想惡化ノ對策ニ關スル件)(櫻内幸雄君外十七名提出) 第一讀會

第三十五 決議案(思想惡化ノ對策ニ關スル件)(櫻内幸雄君外十七名提出) 第一讀會

第三十六 決議案(思想惡化ノ對策ニ關スル件)(櫻内幸雄君外十七名提出) 第一讀會

第三十七 決議案(思想惡化ノ對策ニ關スル件)(櫻内幸雄君外十七名提出) 第一讀會

第三十八 決議案(思想惡化ノ對策ニ關スル件)(櫻内幸雄君外十七名提出) 第一讀會

第三十九 決議案(思想惡化ノ對策ニ關スル件)(櫻内幸雄君外十七名提出) 第一讀會

第四十 決議案(思想惡化ノ對策ニ關スル件)(櫻内幸雄君外十七名提出) 第一讀會

一昨八日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

昭和八年度歲入歲出總豫算案並昭和八年度各特別會計歲入歲出總豫算案

豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

一昨八日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案左ノ如シ

醫師法中改正法律案

齒科醫師法中改正法律案

一昨八日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

意匠法中改正法律案

昭和七年法律第六號中改正法律案

一議員ヨリ提出シタル議案左ノ如シ

三津濱港ヲ第二種重要港灣ニ指定ニ關スル建議案

提出者 武知 勇記君

(以上三月七日提出)

呼子西唐津間國營自動車運輸開始ニ關スル建議案

提出者 藤生安太郎君

足尾銅山鑛煙毒豫防監督ニ關スル建議案

提出者 栗原彦三郎君

鑛業法中改正ニ關スル建議案

提出者 栗原彦三郎君

輸入養鰯飼料取扱ニ關スル建議案

提出者 栗原彦三郎君

提出者

近藤壽市郎君

田中 貞二君

山田 佐一君

小林 錦君

小笠原三九郎君

丹下茂十郎君

山田 佐一君

小林 錦君

小笠原三九郎君

丹下茂十郎君

山田 佐一君

小林 錦君

小笠原三九郎君

丹下茂十郎君

留萌港開港ニ關スル建議案

提出者

東 武君 林 路一君

田中喜代松君

第七師團管下陸軍演習場開放ニ關スル建議案

提出者

林 路一君

滿洲國熱河省方面ニ綠茶輸出ニ關スル建議案

提出者

宮本雄一郎君 加藤久米四郎君

山口忠五郎君 井上 知治君

輸出補償法並同施行規則中改正ニ關スル建議案

提出者

宮本雄一郎君 山口忠五郎君

深澤豐太郎君 三井 德寶君

都城外ノ浦間鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者

水久保甚作君 渡邊 與七君

野尻霧島神宮間國營自動車運輸開始ニ關スル建議案

提出者

水久保甚作君 天辰 正守君

稅務署長ノ地位向上ニ關スル建議案

提出者

那覇市ニ高等水產專門學校設置ニ關スル建議案

提出者

河川法及其ノ關係省令ノ改正ニ關スル建議案

提出者

伊藤皆次郎君 生田 和平君

紅露 昭君

警察官ニ對スル旅客運賃輕減ニ關スル建議案

提出者

一松 定吉君 川橋豐治郎君

御室神社昇格ニ關スル建議案

提出者

野中 徹也君

大宮大越間自動車道路開設ニ關スル建議案

提出者

野中 徹也君

草加栗橋間國道改修速成ニ關スル建議案

提出者

野中 徹也君

利根川改修ニ關スル建議案

提出者

野中 徹也君

忍町ニ二等郵便局設置ニ關スル建議案

提出者

野中 徹也君

大宮小山間鐵道電化速成ニ關スル建議案

提出者

野中 徹也君

（以上三月八日提出）

一昨七日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

辯護士法改正法律案（政府提出）外一件委員

星島 二郎君 磯部 尙君

牧野 賤男君 高橋 泰雄君

小野寺 章君 宮澤 清作君

松本 弘君 山本 芳治君

紅露 昭君 天辰 正守君

崎山 嗣朝君 小林 錦君

武富 濟君 横山金太郎君

一松 定吉君 内藤 正剛君

作田高太郎君 井上 剛一君

一昨七日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

造幣局工場及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案（政府提出）外二件委員

辭任松谷與二郎君 補闕野中 徹也君

輸出絹織物取締法中改正法律案（政府提出）委員

辭任岸田 正記君 補闕佐保 畢雄君

一昨八日齋藤內閣總理大臣ヨリ左ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

大藏書記官 大野 龍太

第六十四回帝國議會大藏省所管事務政府委員被仰付

一昨八日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

辯護士法改正法律案（政府提出）外一件委員

委員長 星島 二郎君

理事 小野寺 章君 山本 芳治君

一松 定吉君 作田高太郎君

一昨八日特別委員理事補選選舉ノ結果左ノ如シ

造幣局工場及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案（政府提出）外二件委員

理事 永田善三郎君（理事池田敬八君

昨八日委員辭任ニ付其ノ補闕）

理事 野中 徹也君（理事松谷與二郎君

君去七日委員辭任ニ付其ノ補闕）

一昨八日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

造幣局工場及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案（政府提出）外二件委員

辭任櫻井兵五郎君 補闕永田善三郎君

辭任內藤 正剛君 補闕手代木隆吉君

辭任池田 敬八君 補闕中島彌國次君

辭任船澤 宇八君 補闕勝 正憲君

辭任中村三之丞君 補闕小川郷太郎君

辭任鈴木 英雄君 補闕畑 桃作君

辭任武田德三郎君 補闕倉元 要一君

辭任沖島 鎌三君 補闕大山斐瑳君

辭任水久保甚作君 補闕玉置吉之丞君

少年救護法案（荒川五郎君外六十六名提出）委員

辭任田尻 生五君 補闕野方 次郎君

○議長（秋田清君） 是ヨリ會議ヲ開キマス、

一昨七日本院ヲ代表シテ議長ヨリ發シタル祝電ニ對シ、滿洲國國務總理鄭孝胥氏ヨリ議長宛謝電ヲ受領致シマシタ、茲ニ之ヲ朗讀致シマス

貴電拜承ス熱河平定ノ大業成リ同慶ノ至ニ堪ヘス茲ニ政府ヲ代表シテ貴院ニ對シ深厚ナル謝意ヲ表ス

（拍手起ル）

○議長（秋田清君） 此際三土鐵道大臣ヨリ、

去ル二月二日ノ本會議ニ於ケル松岡俊三君ノ質疑ニ對シ、答辯ノ爲メ發言ヲ求メラレマシタ、之ヲ許シマス——三土鐵道大臣

（國務大臣三土忠造君登壇）

○國務大臣（三土忠造君） 去ル二月二日ノ本議場ニ於キマシテ、松岡俊三君ヨリ雪害

地方ノ鐵道問題ニ付キマシテ、御質問ガ、

タサウデアリマスガ、當時私ハ本議場ニ居

リマセナシマスガ、答辯スル機會ガナカ

タノデアリマスカラ、今日此場合ニ御答辯致シマス

第一ニ御尋ニナリマシタ除雪防雪ノ問題

デアリマス、除雪防雪ノ困難ナルコトハ、

政府ニ於キマシテモ十分之ヲ認メテ居リマ

シテ、勢ヒ防雪林、防雪柵等ノ設備ヲ、出

來ルダケ完備致サウト思フ、之ニ努メテ居

リマス、更ニ又防雪機械ヲ普及セシメテ、

人力ヲ成ベク省ク、即チ從業員ノ困難ヲ成

ベク省イテヤルヤウニト云フコトデ、努メ

テ居ル積リデアリマスガ、將來モ益、之ニ

力ヲ用ヒル積リデアリマス

第二ニハ、雪國地方ニ於ケル鐵道從業員ノ待遇問題デゴザイマスルガ、是モ從業員ヨリ常ニ希望ガアリマスルシ、彼等ノ苦心モ十分察シテ居リマスルノデ、鐵道省ト致シマシテハ、色々ナ方面カラ出來ルダケ優遇法ヲ講ジテ居リマス、即チ勤務ノ緩和、官舎ノ改善等ハ勿論ノコト、特別ノ場合ニ於キマシテハ、特別ノ手當ヲ支給スルコト云フコトニ致シテ居リマス、北海道ニ於ケル割増手當ト申シマスルモノハ、主トシテ僻陬地方ニ在勤スル者ノ爲ニスル手當デアリマシテ、是ハ自ラ別箇ノ問題デアリマス
ソレカラ第三ニハ、鷲谷龍雄君ノコトニ付キマシテ、御同情アル御質問ガ、アサウデアリマスガ、鷲谷君ノ鐵道省ニ於ケル功勞ニ付キマシテハ、政府ニ於キマシテモ十分認メテ居リマシテ、相當優遇致シテ居リマス、現ニ同君ハ仙臺鐵道局ノ技師トシテ、高等官四等ノ待遇ヲ受ケテ居リマシテ、本人モ相當満足シテ居ルコト、考ヘテ居リマス

第四ニハ、雪國地方ノ私設鐵道ノ補助ノコトデアリマスガ、雪國地方ニ於キマシテハ、自然障礙等ノ爲ニ營業費ガ多ク掛ル、營業費ガ多ク掛レバ營業費ヲ差引キマスカラ、自然ノ結果トシテ補助金モ増加スル譯ニナリマス、此方法ニ依ル外ハナイト考ヘテ居リマス

第五ニ、雪害地方ノ生産物ニ對シテ、特別扱ニスル意思アリヤ否ヤト云フ御質問ガ、アサウデアリマスガ、成程雪國地方ノ人々ガ、生産上不利益ナ位置ニ立ッテ居ルコトハ、能ク存ジテ居リマスガ、併シ斯ノ

如キ自然ノ條件ハ、又各地方ニ依ッテ違フノデアリマシテ、自然的條件ノ不利益ナルコトヲ、鐵道ノ運賃ノ政策ニ依ッテ救済緩和スルト云フコトハ、餘程困難デアリマス、但シ特別ナ損害等ガアリマシタ場合ニ於キマシテハ、出來ルダケ救済策ヲ講ズル積リデアリマス、現ニ昨年ノ東北地方、北海道地方ノ不作、水害等ニ對シテハ、農産物ノ運賃ノ特別割引ヲ致シテ居ルノデアリマシテ、斯様ナ方法ニ依ッテ、緩和致ス積リデアリマス、以上御答申上ゲマス

○松岡俊三君 議長、只今ノ鐵道大臣ノ御答辯ニ對シテ、質問致シタイノデアリマス
○議長(秋田清君) 御登壇ヲ希望致シマス
(松岡俊三君登壇)

○松岡俊三君 只今鐵道大臣ノ御答辯中ニ、北海道ノ從業員ニハ割増ガアルト云フコトヲ申サレタガ、私ノ前回ノ質問ハ、同ジ雪國ノ東北地方デアアルノニ、津輕海峽ヲ渡ッテト云フコトノミデ、北海道ノ鐵道從業員ニ對シテハ割増ガアルテ、何ガ故ニ津輕海峽ノ手前ノ、殊ニ雪ガ澤山降リテ居ル仙臺鐵道局管内ノ從業員ニ對シテハ、何モシナイカト云フコトノ質問ニ對シテハ、御答辯ガナカッタノデアアル、之ヲ私ハ前回ノ質問中ニ要求シタノデアアルガ、只今ノ御答辯ニハ是ガナカッタノデアアル、此點ガ重點デアアル、何モ今日鐵道從業員ニ對シテ、役宅ガドウダトカ云フヤウナ、左様ナ問題デハナイ、役宅ハ置カナケレバナラヌ、外ノ方ノ鐵道從業員ヨリモ、ヨリ多ク住宅ノ設備ヲセンケレバナラヌト云フヤウナ、ソレ程ニ困ッテ居ル所ニ向ッテ、同ジ雪國ノ鐵道從業員デアリナガラ、北海道ノ從業員ニ對シテハ割増ヲ爲シテ、サウシテ津輕海峽ノ手

前ノ仙臺鐵道局管内ニハ、何ガ故ニ之ヲシテ居ナイカ、之ヲドウスルカト云フコトノ質問ニ對シテノ御答辯ガナイカラシテ、再ビ之ヲ明瞭ニ御答ヲ願ヒタイノデアアル
第二番目ニハ、昭和三年ノ十月ニ、盛岡ニ行ハセラレマシタ大演習ノ際ニ、御統監ニ御出マシニカ、大元帥陛下ニアラセラレテハ、雪中ノ作業嚙ゾ難儀デアラウト云フコトヲ仰セラレテ居ルノデアアル、此御言葉ニ對シテ鐵道當局ハドウ考ヘテ居ルカ、雪中ノ作業嚙ゾ難儀デアラウト云フ此御言葉ニ對シテ、實際ニ鐵道從業員ニ對シテ、ソレダケノコトヲヤンデ居ルカ、北海道ノ從業員ニハ割増ノ手當ガアル、併ナガラ津輕海峽ノ手前ノ仙臺鐵道局管内ノ者ニ向ッテハ何モ手當ガナイ、斯ウ云フコトガ 陛下ノ大御心、雪中ノ作業嚙ゾ難儀デアラウト云フ、此大御心ニ副ヒ奉ッテ居ルモノト思ハル、カドウカ、此點ニ對シテハ御答辯ヲマダセラレナイ、此事ヲ明瞭ニ御答辯願ヒタイノデアリマス

(國務大臣三土忠造君登壇)
○國務大臣(三土忠造君) 只今申上ゲマシタ通り、雪國方面ニ於キマシテ、雪害ノ爲ニ相當困難ナ作業ニ從事致シマシタ場合ニ於キマシテハ、其都度之ヲ優遇スルコト云フ方法ヲ講ジマス、北海道ハ地理的ニ遠隔ノ地デアリ、僻陬ノ地デアアルノデアリマシテ、之ニ對シテノ待遇トハ別問題デアアルト云フコトヲ申シタノデアリマスガ、ソレデ御答ニナルト思ヒマス
又雪國地方ノ雪中ノ作業ガ、嚙ゾ難儀デアラウト云フ 陛下ノ御思召ハ、洵ニ拜承致シマシテ恐懼ニ存ジマス、故ニ雪國地方デ從業シテ居ル從業員ニ對シマシテハ、前

ニ申シマシタヤウナ方針ヲ以テ、特別ナ場合ニ於キマシテハ、特別ナ待遇ヲ與ヘルト云フコトノ方針ヲ執ッテ居ル次第デアリマス
○議長(秋田清君) 日程第一及日程第二ハ同種議案ナルニ依リ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第一、醫師法中改正法律案、日程第二、齒科醫師法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——內務大臣山本達雄君

第一 醫師法中改正法律案(政府提出案、貴族院送付) 第一讀會

第二 齒科醫師法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

醫師法中改正法律案
醫師法中左ノ通改正ス

第二條第二號中「準禁治產者」ヲ「準禁治產者、精神病者」ニ改ム

第四條ノ二 診療所ノ開設、構造、設備及管理ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 醫師診療ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク診療ニ關スル事項ヲ診療録ニ記載スベシ

前項ノ診療録ニシテ診療所ニ依リ爲シタル診療ニ關スルモノハ其ノ診療所ノ首長ニ於テ、其ノ他ノ診療ニ關スルモノハ其ノ醫師ニ於テ之ヲ五年間保存スベシ

第六條ノ二 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ必要アルトキハ命令ノ

定ムル所ニ依リ衛生官吏ヲシテ診療録ヲ査閲セシムルコトヲ得

第七條 醫業ニ關シテハ何人ト雖モ醫師ノ學位、稱號及命令ヲ以テ定ムル專門科名ヲ除クノ外技能、療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ズ

職務上前項ノ秘密ヲ知得シタル他ノ公務員又ハ公務員タリシ者故ナク其ノ秘密ヲ漏洩シタルトキハ亦前項ニ同ジ

第九條第二項ヲ左ノ如ク改ム
公私立ノ齒科診療所ニ於テ齒科醫業ニ從事スル齒科醫師ハ其ノ齒科診療所ノ所在地ヲ區域トスル道府縣齒科醫師會ノ會員トス

洩シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
職務上前項ノ秘密ヲ知得シタル他ノ公務員又ハ公務員タリシ者故ナク其ノ秘密ヲ漏洩シタルトキハ亦前項ニ同ジ

第九條 郡市區醫師會ハ勅令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外郡市區ヲ區域トス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條ノ三第二項中「第二項」ヲ「第二項及第三項」ニ改ム

○國務大臣(男爵山本達雄君) 只今議題トナリマシタ醫師法ハ、明治三十九年ノ法律第四十七號ヲ以テ制定セラレ、今日マデ既ニ二十有餘年ノ歲月ヲ閱シテ居ルノデゴザイマス、其間數次ニ互テ改正セラレテハ

前項以外ノ醫師ハ其ノ住所地方區域トスル郡市區醫師會ノ會員ト爲ルコトヲ得

第四條ノ二 齒科診療所ノ開設、構造、設備及管理ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條ノ二中「第四條ノ二」ヲ削リ「第九條第二項」ヲ「第九條第二項第三項」ニ改メ同條ヲ第十一條ノ四トス

是ガ改正ヲ爲スコトニ致シタ次第デアリマス、醫師法改正ノ諸點ヲ略述シマスレバ、大體左ノ如クデアリマス、第一ハ診療所ノ開設、管理、構造、設備ニ關シ、必要ナル事項ヲ命令ヲ以テ定メルコトニ致シタノデアリマス、第二ハ診療録ノ記載義務者及保存義務者ヲ明確ニシ、且ツ診療録ノ保存期限ヲ、是マデ十年デアリマシタ其十年間ヨリ、五年間ニ短縮シタコトデアリマス、第三ハ地方長官ニ對シ診療録ノ査閲ノ權限ヲ附與シタルコトデアリマス、第四ハ醫業ニ關スル廣告ヲ、醫師以外ノ者ノ爲ス場合ニモ之ヲ制限シ、廣告制限事項ヲ嚴重ニシ、且ツ醫業ニ關スル廣告ノ制限ニ付テノ權限ヲ、內務大臣ニ附與シタルコトデアリマス、第五ハ郡市區醫師會員ノ範圍ヲ擴張シ、任意加入會員ヲ認メ、且ツ區醫師會設立ニ關スル規定ヲ、整理シタコトデアリマス、第六ハ無免許醫業者ニシテ醫師又ハ之ニ

第十一條 免許ヲ受ケズシテ醫業ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 齒科醫師診療ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク診療ニ關スル事項ヲ診療録ニ記載スベシ

第十一條ノ二 齒科醫業停止中ノ齒科醫師ニシテ齒科醫業ヲ爲シタル者、第五條、第六條若ハ第七條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第六條ノ二ノ規定ニ依リ衛生官吏ノ査閲ヲ拒ミ若ハ妨ゲタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

醫師ニシテ特ニ內務大臣ノ許可ヲ受ケズシテ齒科專門ヲ標榜シ又ハ齒科醫業中金屬充填、鑲嵌、義齒、齒冠繼續及架工、齒列矯正並ニ口蓋補綴ノ技術ニ屬スル行為ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

第十一條ノ二 醫業停止中ノ醫師ニシテ醫業ヲ爲シタル者、第五條、第六條、第七條第一項若ハ第十三條第三項但書ノ規定ニ違反シタル者又ハ第六條ノ二ノ規定ニ依リ衛生官吏ノ査閲ヲ拒ミ若ハ妨ゲタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六條ノ二 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ衛生官吏ヲシテ診療録ヲ査閲セシムルコトヲ得

第十一條ノ三 衛生官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク第六條ノ二ノ規定ニ依リ診療録ノ査閲ニ關シ知得シタル醫師ノ業務上ノ秘密又ハ個人ノ秘密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條ノ三 衛生官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク第六條ノ二ノ規定ニ依リ診療録ノ査閲ニ關シ知得シタル齒科醫師ノ業務上ノ秘密又ハ個人ノ秘密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條ノ三 衛生官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク第六條ノ二ノ規定ニ依リ診療録ノ査閲ニ關シ知得シタル醫師ノ業務上ノ秘密又ハ個人ノ秘密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 齒科醫業ニ關シテハ何人ト雖モ齒科醫師ノ學位、稱號及命令ヲ以テ定ムル專門科名ヲ除クノ外技能、療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ズ

第十一條ノ三 衛生官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク第六條ノ二ノ規定ニ依リ診療録ノ査閲ニ關シ知得シタル齒科醫師ノ業務上ノ秘密又ハ個人ノ秘密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條ノ三 衛生官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク第六條ノ二ノ規定ニ依リ診療録ノ査閲ニ關シ知得シタル齒科醫師ノ業務上ノ秘密又ハ個人ノ秘密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條ノ三 衛生官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク第六條ノ二ノ規定ニ依リ診療録ノ査閲ニ關シ知得シタル醫師ノ業務上ノ秘密又ハ個人ノ秘密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條ノ三 衛生官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク第六條ノ二ノ規定ニ依リ診療録ノ査閲ニ關シ知得シタル醫師ノ業務上ノ秘密又ハ個人ノ秘密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條ノ三 衛生官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク第六條ノ二ノ規定ニ依リ診療録ノ査閲ニ關シ知得シタル齒科醫師ノ業務上ノ秘密又ハ個人ノ秘密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條ノ三 衛生官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク第六條ノ二ノ規定ニ依リ診療録ノ査閲ニ關シ知得シタル齒科醫師ノ業務上ノ秘密又ハ個人ノ秘密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

類スル名稱ヲ僭稱シタル時ハ、刑罰ヲ加重スルコトデアリマス、第七ハ醫療診療録ノ査閱ニ依リ知り得タル醫師及患者ノ秘密ノ嚴守ヲ命ジ、之ニ違反スル者ニ對シマシテ、刑罰ヲ科スルコト、シタコトデアリマス、大體以上ノ通りデアリマスガ、要シマスルニ醫業ヲ統制シ、醫風ノ向上ヲ圖リ、以テ醫事衛生ノ改善發達ニ資セントスルモデアリマス、何卒慎重御審議、御贊成アラシコトヲ願ヒマス

第二ノ議題トナリマシタ此齒科醫師法デアリマスガ、是モ醫師法ト同ジク、明治三十九年ノ制定ニ係ルモノデアリマシテ、其後數次改正セラレテ居リマスガ、時勢ノ進展、齒科醫業ノ發達ニ伴ヒマシテ、齒科醫師法ニ改正ヲ加ヘテ、以テ齒科醫事衛生ノ改善ヲ期セントスルデアリマス、齒科醫師法中改正法律案ノ要領ハ、大體醫師法ノ改正ト同一趣意デアリマス、何卒御審議ノ上、御協贊アラシコトヲ希望シマス（拍手）

○議長（秋田清君） 質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス——深澤豐太郎君

（深澤豐太郎君登壇）

○深澤豐太郎君 只今上程ニナリマシタ醫師法改正案ニ付テ、二三質問ヲ致シタイト思フノデアリマス、後ヨリ専門家デアラレマス醫師ノ代議士諸君ヨリ、御質問ガアルコト、考ヘマス、私ハ素人ノ立場ヨリ、内務大臣及文部大臣ニ御伺フ致シタイノデアリマス

今回ノ改正ニ當テ、此改正案ヲ提出セラハ、マデニ、幾多ノ審議ノ機關ヲ通テ來タコト、思フノデアリマス、其審議機關ノ中デ、一番重點トナテ論議セラレタモノハ、

醫師ニ非ザル者ガ醫業ヲ營ムコトガ出來ルト云フ一點ト、診療録ノ査閱ト云フ點、是ガ一番ノ論議ノ中心デアッタと思フノデアリマス、私ハ其中、先ヅ醫師ニ非ザル者ガ醫業ヲ營ムコトガ出來ルト云フ、此原則ニ付テ御伺フ致シタイノデアリマス、今回ノ醫師法改正案ヲ見マスト、各條項ニ於テ醫師ニ非ザル者ガ醫業ヲ營ムコトノ出來ルト云フ點ガ、散見致スノデアリマス、私ハ國民ノ概念トシテ、醫院ヲ營ンデ居ル者ハ悉ク醫師デアルト云フコトガ、一般國民ノ考デアラウト思フノデアリマス、何々醫院ノ院長デアルト云ヘバ、其人ハ必ズ醫師デアルト、國民ハ文句ナシニ、斯ク信用シテ居ルノデアリマス、然ルニ醫師デナイ者ガ院長ニナテ、醫業ヲ經營スルコトガ出來ルト云フコトハ、現在ノ國民ノ概念カラスレバ、國民ヲ欺クモノデアルト申シテモ差支ナイと思フノデアリマス、此點ニ付テ貴族院ノ質疑應答及附帶決議等ヲ見マシテ、貴族院ニ於テモ非常ナル論議ガアラタノデアリマス、之ニ付テ内務當局ハ、若シ醫師ニ非ザル者ガ醫業ヲ營ムコトガ出來ナイ、官公立及慈善ヲ目的トスル者以外ニ許サナイトナルト、公益法人デアアル赤十字病院モ許スコトガ出來ナイヤウニナルナドト云フ、屁理窟ヲ言テ答辯ヲ致シテ居リマス、吾々ハ公益法人デアアル赤十字病院ナドガ許サレルコトハ勿論、尙ホ進ンデハ産業組合デ經營スル診療所ノ如キモ、之ヲ認メテ差支ナイと思フ、尙ホ進ンデハ産業組合ノ如キ法人ガ、診療所ヲ設ケントスル其以前ニ、地方ノ開業醫ニ對シテ是等ノ法人ガ醫師ノ囑託ヲスル場合ニ、各地方ノ開業醫ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズト云フ法律デモ作

テ、地方ノ便宜ヲ圖ル方ガ宜シイト思ッテ居ル位デアリマス、故ニ私共ハ内務當局ノ言フガ如クニ、公益法人トカ或ハ營利ヲ目的トセザル法人ノ診療所マデモ、醫師ニ非ザレバ醫業ヲ營ムコトヲ得ズト云フ條項デ、制限セントスルモノデアナイ、勿論斯ノ如キコトハ爲サネバナラヌ今日ノ時勢ノ趨勢デアリマス、之ヲ法律ノ上ニ明ニシテ置イテ、醫師ニ非ザル者ハ醫業ヲ營ムコトヲ得ズ、但シ官公立慈善及法人等ノ營利ヲ目的トセザル者ハ此限ニアラズト云フ、原則トシテハ醫師デナケレバ醫業ヲ營ムコトノ出來ナイヤウニ規定スルノガ、一番正シイノデハナイカト、斯ク考ヘルノデアリマス、私ノ斯ク申上ゲマスル一ツノ論據ハ、私共ガ地方ノ實情ヲ見マスルノニ、今日地方ノ指導機關トナテ居ルモノハ、如何ナル階級ノ人々デアアルカ、僧侶ハ勢力ヲ失ヒ、昔ノ庄屋ノ如キ素封家モ勢力ヲ失ヒマシタ、今日地方ノ中堅トシテ、國民ノ指導的地位ヲ占メテ居ル最モ有力ナル者ハ、醫師デナケレバナラナイト思フノデアリマス、諸君、此醫師ガ今日尙ホ其社會的地位ヲ保ッテ居ルノハ、所謂醫仁術デアル、營業デハナイト云フ觀念ガ、醫師ヲシテ今日ノ地位ヲ保タシメテ居ルノデアアル、吾々ハ今後ト雖モ醫仁術デアルト云フ、此德義心ヲ益、助長セシメテ行クノ必要ガアルト思フノデアリマス、地方ノ指導階級トシテノ醫師ノ地位ヲ保タシムルト共ニ、此醫仁術デアルト云フ其觀念ハ、益之ヲ深メテ行クノ必要ガアルト考ヘルノデアリマス、若シ醫師ニ非ザル者ガ醫業ヲ營ムコトニナテ、今日ハ甲ノ醫師ヲ儲ヒ、明日ハ乙ノ醫師ヲ儲入レル、年中醫師ノ更迭ヲ見ルガ如キコトハ、此德

義心ヲ助長スル所以ノ途デアアリマセヌ、ノミナラズ營利ヲ目的トスル醫業ノ經營者ガ跋扈致ス結果トシテハ、仁術ヲ以テ立タウトスル醫師ガアリマシテモ、勢ヒ是等ノ醫師モ營利ヲ目的トスル非醫師トノ對抗上、自ラ醫業ノ墮落ヲ見ルコトハ當然ノ結果デアラウト思フ、今日ノ時勢ニ於テ私共ノ最モ遺憾ト思ヒマスコトハ、御五ノ地方ニ於キマシテモ、多クノ醫師ハ管テ治療代ノ請求書モ出シタコトハナイ、月末ニ要求書ヲ出スナド、云フコトハ嘗テナカッタ、然ルニ近來屢、時勢ノ壓迫ニ堪ヘ兼ねテ、醫師ガ患者、患者ニ對シテ、進ンデ相當ニ強キ要求ヲシテ來ル、益暮ニ相當ノ謝禮ヲスレバ、掛リ付ケノ醫者ハソレデ濟ンデ居ル傾向ガ、動トモスレバ破壊セラレントシテ來ル、此破壊セラレテ來ルコトハ已ムヲ得ナイト致シマシテモ、之ヲ破壊スルコトヲ助長シテ行クト云フコトハ、好マシイ傾向デアナイト思フノデアリマス、若シ是ガ破壊サレテ行キマシテ、醫師ノ營利的ノ目的ガ重要ナル地位ヲ占メテ來レバ、醫師ノ社會的地位ハ低下ヲシテ來ル、今日社會ノ指導階級トシテ重キヲ爲シテ居ル醫師ノ地位ハ、此傾向ノ爲ニ根柢カラ覆ヘサレル結果ニナルノデアナイカト思フノデアリマス、此點ニ付テ私ハ文部大臣ニ御伺フ致シマス

今日醫學專門學校ナリ或ハ醫科大學等ニ於ケル教育ノ方針ハ、此醫師ノ德義心ヲ高メテ、醫師ハ營利事業ノ爲ニヤルモノデナイト云フ觀念ヲ、學生ニ教育シツ、アルモノデアナイカト思フ、又斯クナケレバナラナイト思フノデアリマス、然ルニ今回ノ此改正ノ結果ハ、此醫師ノ德義心ヲ傷ケ、此

美風ヲ破壊セントスル傾向ノ起ラントスル改正デアリマス、之ニ對シテ文部大臣ハ、醫業ハ醫師デナケレバ、營ムコトガ出來ナイト云フ原則ヲ定ムルコトガ宜イカ惡イカ、醫師デナクトモ醫業ヲ營ムコトガ出來ルト云フコトハ、此德義心ヲ破壊スルモノデアアル、破壊スル傾向ヲ助長スルモノデアルト御認メニナルカナラナイカ、簡單ニシマスレバ、醫者ガ醫業ヲヤル方ガ宜イノカ、醫者デナイ者ガ醫業ヲヤルモ差支ナイノカ、此醫業ニ對スル文部大臣ノ理想ヲ御同致シタイノデアリマス

内務大臣ニ對シテハ、獨リ醫業ノ取締ト云フ問題ノミデナシニ、今日ノ社會全體ヲ見テ、醫師ノ社會的地位ヲ保持セシムルコトガ、今日ノ日本ノ一般的情勢カラ必要デアルト御認メニナルカドウカ、若シ御認メニナルナラバ、醫師デナケレバ醫業ヲ營ムコトガ出來ナイトスルノガ當然デハナイカ、之ニ御明答ヲ願ヒタイノデアリマス

尙ホ此場合一言致シマスガ、私共ノ手ニ致シマシタ政府提出ノ法律案デ、法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律案ト云フノガ來テ居ル、此辯護士ノ業務ヲ擁護スル爲メ法案ノ第三條ニ於テハ「辯護士ニ非ザル者ハ利益ヲ得ル目的ヲ以テ辯護士事務所、法律事務所其ノ他之ニ類似スル名稱ヲ使用スル事務所ヲ設クルコトヲ得ズ」ト云フ法律ガ出テ居リマス、諸君、辯護士デナケレバ法律ノ事務所サヘモ持ツコトガ出來ナイト云フ法律ガ、出テ來タ場合ニ於テ、片方ヨリハ醫者ニ非ズトモ醫業ヲ營ムコトガ出來ルト云フ法律ヲ手ニシタ、同ジ政府ノ下ニ於テ、國民ノ權利義務ヲ擁護スル辯護士ニ對シテハ、辯護士デナケレバ法律ノ事務所スラ持ツコトガ出

來ナイト云フ法律ヲ提出シテ置イテ、同ジ國民ノ生命ヲ預ル醫師ニ對シテハ、醫師ニ非ザル者モ醫業ヲ營ムコトガ出來ルト云フ法律ヲ出スト云フコトハ、政府部内ノ理想ニ於テ、何等カノ扞格ヲ有テ居ルノデハナイカト思ヒマス（拍手）同ジク人民ノ權利義務ヲ擁護スル其法律ヲ出サレタ以上ハ、人民ノ生命ヲ擁護スル上ニ於テモ、醫師デナケレバ醫業ヲ營ムコトガ出來ナイト云フノガ、當然デアラウト思フノデアリマス、其他色々ノ陳情ヲ手ニ致シテ居リマス、若シ備入ノ醫者デ、其備入レタ醫者ヲ更迭スルト云フ場合ニ、其醫師ヲ解僱シテ次ノ醫師ヲ備入レルマデノ間ニ、其醫師ノ預テ居ラタ所ノ劇毒藥ノ取扱ハ誰ガスルノカ、麻酔藥ノ管理ハ誰ガスルノカト云フヤウナコトハ、劇毒藥取締ノ規則、麻酔藥取締ノ規則ニモ違反スル結果ニナル、是ハ何ト辯解シテモ私共ハサウ考ヘルノデアリマス、其他質問致スベキコトハ多々アリマスルケレドモ、診療簿ノ査閲ノ如キモ、衛生官吏トナテ居リマスガ、衛生官吏ガ必要アリト認メタ時ト云フ、其必要ト云フノハドウ云フコトデアリマスカ、若シ刑事上ノ必要デアルナラバ、モット明ニ刑事上ノ必要ノ各機關ニ之ヲ爲サシムルノガ、正當デハナイカト思フノデアリマス、或ハ其疑惑ヲ受ケル事項ニ付テノ査閲スルト云フヤウナコトヲ、明ニ定メテ置ク方ガ宜カラウト思フノデアリマス

他ニモ質問スベキ點ハ多々アリマスルケレドモ、是ハ細カイコトニナリマスカラ、委員長會デ質問スル機會ガアリマシタラ、質問致スコト、致シマス、是デ私ノ質問ヲ終リマス（拍手）

（國務大臣鳩山一郎君登壇）
○國務大臣（鳩山一郎君） 深澤君ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、深澤君ガ述べラレタ醫ハ仁術デアアル、醫者ガ金錢ヲ目的トセズ、營利ヲ目的トセズシテ治療診察ヲスルコトガ、社會上必要ダト云フ、其御議論ニ對シマシテハ全ク同感デアリマス、人ニシテ仁ナケレバ人ニ非ズト云フ譯デアリマスガ、特ニ人ノ困難ニ遭遇シテ、其困難ヲ原因トシテ金錢ヲ取ラウト云フヤウナコトハ、避ケナクテハナラナイト思ヒマス、其見地カラ、醫者ニ非ザル者ガ診療所ヲ經營ラシテ、醫者ヲ備入レテ、其診療ニ當ラシメルト云フコトハ、其趣旨ニ反スルモノト思フノデアリマス、隨テ私ハ最初同ジ疑問ヲ有チマシテ、此法案ニ對シテ直チニ贊成致シマセヌデシタケレドモ、衛生局長ニ聞イテ見マス、現在ニ於テ醫者ニ非ザル者ガ診療所ヲ經營シテ居ルモノハ非常ニ多イ、此現在ノ狀態ヲ矯正スル爲メハ、診療所ニ對シテ免許主義ヲ執テ、サウシテ診療所ヲ良クスル方針ニ出デナケレバ、其弊害ノ及ブ所知ルベカラザルモノアルガ故ニ、今回ノ如キ四條ノ附則ヲ設ケタノデアルト云フ説明デアリマシテ、現在ヨリハ良クナルト思フテ贊成シタ譯デアリマス、併ナガラ私ノ理想ガ何處ニアルカト云ヘバ、理想ハ深澤君ト全ク同様ノ點ニアラネバナラスト思ヒマス（拍手）尙ホ醫者ノ責任觀カラ致シマシテモ、人ニ備ハレデ「サラリマン」トシテ醫業ニ就キ、診察ニ從事スルヨリハ、自己ノ責任ニ於テ診察スルコトガ最モ必要ダト思ヒマスカラ、責任觀ノ上カラシテモ、質問者ト同様ナコトガ理想デアルト云フコトハ、之ヲ言明スルニ躊躇致サナイノデアリマス（拍手）

（國務大臣男爵山本達雄君登壇）
○國務大臣（男爵山本達雄君） 御答ヲ申上ガマス、醫師ノ是迄地方々々ニ於キマシテ高等ナ地位ヲ占メテ居リ、又ソレガ宜シイト云フコトハ、御同感デゴザイマシテ、成ベク醫師ノ地位ヲ高メルコトニ付テハ心配ヲシテ、是ハ出シタノデゴザイマス、ソレカラドウモ醫師ニ於キマシテハ、矢張人命ニ大關係ヲ有チマスル地位ノコトデアリマスルカラ、醫師ハ醫師トシテ十分ナ素養ノアル人ヲ以テ、ソレモ（醫師ノ職責ヲ盡スコトニシタイト思ヒマシテ、斯クシタ次第デゴザイマス、ソレカラ診療所ノコトデゴザイマスガ、是ハ醫師ニ非ズトモ診療所ヲ設ケテ、サウシテ其處ニ適當ナル醫師ヲ備入レマシテ、ソレニヤラセマスレバ、別ニ差支ノナイコトデアリマス、差支ナイデハナイ、ドウモ此病院ナドヲ造リマス上ニ付テハ、矢張世ノ中ノ有志、或ハ又ソレモ（名望ノアル人ノ如キ者ガ診療所ヲ造テ、其處ニ適當ノ醫師ヲ選ンダナラバ、醫師ノ向上ヲ圖ル上ニ付テモ適當デアラウト考ヘマシテ、斯ク致シタ次第デゴザイマス（拍手）

○深澤豐太郎君 簡單デスカラ、此席カラ御許シテ願ヒマス

○議長（秋田清君） 宜シウゴザイマス

○深澤豐太郎君 政府ノ答辯ヲ綜合スルト、醫者ニ非ザル者ガ醫業ヲスルコトガ出來ルト云フ原則ヲ認メタ、但シ醫者ニ非ザル者ガ醫業ヲ營ム場合ニハ、嚴重ニ取締ルト云フノデアリマス、私ノ質問ノ趣意ハ、醫者デナケレバ醫業ヲ營ムコトガ出來ナイト云フ原則ヲ定メテ、而シテ除外例ハ之ヲ別ニ規定シテ行クト云フ相違ガアルダケデ、理想ニ於テハ同一デアルト考ヘマスカ

ラ、何レ委員會ニ於テ政府ト相當ノ研究ヲ致シタイト思ヒマス、是デ終リマス

○議長(秋田清君) 福田虎龜君

(福田虎龜君登壇)

○福田虎龜君 私モ二三點此問題ニ付テ御尋ラシタイト思フテ居ルノデアリマス、唯遺憾ナコトニハ、内務大臣ガ御朗讀ニナリマシタ理由ハ、句讀訓點甚ダ不明瞭デアリマシタガ故ニ、私ガ問ハントスル所モ、甚ダ制限サレル譯デアリマス、何レ後日ノ機會ヲ捉ヘマシテ御質問申上ゲルコトニ致シマシテ、極ク簡單ニ二三點ノ問題ニ付テ、御意見ヲ拜聽シタイト思ヒマス

第一ノ問題ハ、只今深澤君カラ御質問ニナリマシタノデ、私モ詳シクハ申シマセヌガ、唯醫者ノ醫療診療ノ良否ト云フモノガ、醫者ノ技術ノ問題ニ總テ掛カルト御考ヘニナルト大間違デアリマス、是ハ自分デ開業シテ居ル所ノ醫者ガ、責任觀、道德觀念ヲ有テ、初メテ治療ノ效果ヲ擧ゲルノデアリマスカラ、唯非醫者ナルモノガ醫者ヲ備フテ、其備醫者ニ總テノ治療ヲ任セルト云フコトハ、是ハ非常ニ危險デアルト云フコトヲ私ハ感ジマスガ故ニ、此免許制度ヲ採ラレタコトガ、將來宜カラザル結果ヲ招來スルモノデアラウト思フノデアリマス

第二ノ點ハ、衛生官吏ガ診療録ヲ査閱スルコトデアリマス、私モ地方ノ役人ヲシテ居リマシタガ、實際ノ經驗カラ申シマスルト、府縣ノ衛生課ニ居リマス醫者ト開業醫トノ關係ハ、何レノ地方モ圓滿デハナイノデアリマス、斯様ナ實際カラ立論致シマスルト、此査閱ト云フモノハ、非常ナ危險性ヲ伴ヒヤシナイカ、尙ホ又第二ニ、醫者ガ守ルベキ所ノ秘密ノ義務ヲ、此一點カラ破壊スルコトニナリハ

シナイカト云フノガ、第二ノ質問デアリマス

第三ハ第七條ノ醫者ノ廣告ニ關スル取締デアリマスガ、醫者ノ經歷ニ關スルコトマデモ取締ラル、前ニ、何故賣藥ニ關スル、アノ誇大廣告ノ御取締ヲ爲サナイカ(拍手) 醫者ノ廣告ヨリモ、私ハ此賣藥ノ廣告ニ依テ世人ガ非常ニ惑ハサレテ居ルコトハ、私ガ申上ゲルマデモナイコトデアリマス、醫者ノ實際ノ經歷ヲ紹介スルコトハ、是ハ却テ必要デアリマス、之ヲ取締ラレテ、唯賣藥ノ誇大廣告ヲ寬恕サレルト云フコトハ、是ハ甚ダ前後シタル問題デアルト思フノデアリマス、此點ヲ御質問申上ゲテ、最後ニ先般各派カラ提出致シマシタ產婆法ノ改正ニ關スル法律案ニ付テマアリマス、此法律案ハ時宜ニ適スルモノト思フノデアリマスガ、内務大臣ハ產婆法ヲ改正セラ、意思ガアルヤ否ヤ、此四ツノ點ヲ簡單ニ御尋致シテ見タイト思フノデアリマス(拍手)

○議長(秋田清君) 大島政府委員

(政府委員大島辰次郎君登壇)

○政府委員(大島辰次郎君) 只今ノ御質問ニ對シマシテ私カラ御答致シマス、第一ノ點ハ、診療所ノ良否ト云フコトガ、醫療ノ良否ト云フコトニ至大ノ關係ヲ持ツデハナイカト云フ御尋デアリマシテ、ソレハ仰セノ通りデアリマス、サウ云フ意味ヲ以チマシテ、現在ノ法律ノ下ニ於キマシテハ、診療所ノ開設管理ト云フコトハ、醫者ニ非ザル者ト雖モ、全ク自由ニ之ヲ爲シ得タノデアリマスルノデ、只今申上ゲマシタ通り、其診療所ノ經營者ノ人格信用ト云フコトガ、其診療ト云フコトニ至大ノ關係ヲ有チマスルノデ、今回ノ法律ノ改正ニ依リマシテ、

醫者ニ非ザル者ガ診療所ヲ開設セントスル場合ニ於キマシテハ、其者ガ果シテ醫療ヲ正當ニヤリ得ル人格ノモノデアルカドウカ、及其信用ガ果シテ置ケルモノデアルカト云フコトヲ十分ニ調査致シマシテ、其上デ許可ヲスルコトニ致シタノデアリマス、第二ノ診療録ノ査閱ヲ爲ス場合ニ於テ、ソレヲ慎重ニシナケレバナラスデハナイカト云フヤウナ御話デアリマスルガ、ソレモ洵ニ御尤ナ質問デアリマシテ、此改正法文ニモアリマスル通り、診療録ノ査閱ヲ致シマスル場合ニハ、必要アル場合ニ限りマシテ、サウシテソレヲ爲シマスル者ハ、單ニ警察官ト云フモノヲ以テスルニ非ズシテ、衛生官吏ト云フモノヲ以テ之ニ當テリ積リデアリマス、尙ホ此診療録ノ査閱ニ關シマシテハ、之ヲ施行致シマスル爲ニ内務省令ヲ出シマスルトカ、或ハ各府縣知事ニ對シマシテ通牒ヲ發シマスル場合ニ、苟モ之ヲ濫用スルガ如キコトノナイヤウニ、十分取締ル積リデ居ルノデアリマス、第三ノ醫者ノ廣告ノ取締ヲ爲ス同時ニ、賣藥ノ廣告ノ取締ヲ爲サネバナラスデハナイカト云フ御話デアリマス、此賣藥廣告ノ弊害ニ付キマシテハ、私共モ非常ニ痛感致シテ居ル點デアリマシテ、昨年頃カラ賣藥廣告ノ取締ニ付キマシテハ、或ハ地方長官會議ニ於キマシテモ、或ハ警察部長會議ニ於キマシテモ、其取締ノ徹底ヲ期スルヤウニ度々申シテ居ルノデアリマス、今後トモ此點ニ付テハ十分其徹底ヲ期スル積リデ居マス、第四ノ御質問ノ點ハ、現行產婆取締規則ヲ改正シ、或ハ產師法ト云フガ如キモノヲ制定スル考ハナイカト云フ御話デアリマシタガ、現在ノ產婆ノ普及ノ狀況カラ考ヘマシテ、又產婆

ノ業務ノ性質カラ考ヘマシテ、政府ト致シマシテハ、現行ノ產婆規則ヲ以テ足レリト云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマシテ、此產婆ニ關スル法律ヲ制定スル考ハ有テ居ナイノデアリマス

○福田虎龜君 確ニ内務大臣ヨリモ餘程明瞭ナル御答辯デアッタノデアリマス、併シ問題モ色々アリマシタノデ、何レ委員會デ質問シマス

○議長(秋田清君) 杉山元治郎君

(杉山元治郎君登壇)

○杉山元治郎君 私モ今上程ニナラテ居リマス所ノ、醫師法並ニ齒科醫師法ノ改正ニ付キマシテ、極ク簡單ニ二三ノ點ヲ質問致シタイト存ジマス、前ノ方トノ重複ヲ避ケマシテ、違フ點ダケヲ二三點伺ヒタイト思フノデアリマス、内務大臣カラ本案提案理由説明ノ中ニ、本案ヲ出シタ事ハ時代ノ進運ニ伴ウテ、ソレニ必要ナ改正ヲ行フノデアル、斯ウ云ウコトヲ伺ヒマシタガ、御承知ノヤウニ今日ノ社會ノ狀勢カラ致シマス、多クノ社會ノ人々ノ中ニハ醫療ヲ受ケタイ、斯ウ考ヘナガラ、受ケルコトノ出來ナイ人達ガ多數アルノデアリマス、一言致シマスナラバ、醫療ノ費用ガ無い、或ハアッテモ自分達ノ生活ト致シマシテハ、現在ノ醫療費ガ高い、斯ウ云ウ意味合カラ致シマシテ、醫療ヲ受ケルコトノ出來ナイ大衆ガ、現在存在シテ居ルノデアリマス、サウ云フ意味カラ致シマス、此改正ニ伴フテ社會立法的ナ、サウシタ部分ガ、此中ニ明瞭ニ現ハレテ居ラナイ、サウ云フヤウナ點ハ、深澤サンモ御話ニナラヤウニ、例ヘバ醫療組合デアルトカ、公益團體ノ爲ニ醫者ガ其要求ニ應ズルトカ、拒絶スルコトガ出

來ナイト云フヤウナ點ヲ明ニシタ方ガ宜イ
デハナイカ、サウ云フコトガ現代ノ醫療ヲ
要求シテ居ル人達ノ要求ナノデアリマス、
其點ガ改正法案ノ中ニ明瞭デナイト思フノ
デアリマスガ、其點ヲ一ツ伺フテ置キタイ
ノデアリマス

次ニ條文中デアリマスガ、伺ヒマス
第一條ニ、衛生審議局ノ答申ノ中ニハ、内
務大臣モ其專門學校ノ指定ノ中ニ入テ居
タヤウニ聞及ンデ居タノデアリマスガ、本
案ノ中ニハソレガ省カレテ居ルノデアリマ
スガ、何故ニ答申案ニアッタノヲ省カレテ文
部大臣ダケニナッタノデアルカ、學校ノ管
轄ハ勿論文部大臣デアリマセウガ、併シ學
校ヲ出テカラ後ノ醫師ハ、内務大臣ノ所管
デアリマス、サウ云フ意味合カラ致シマシ
テ、衛生審議局ガ文部大臣並ニ内務大臣ト
シタト考ヘルノデアリマスガ、ソレガ故ニ
省カレマシタ理由ハ、ドウデアアルカト云フ
コトヲ伺ヒタイノデアリマス

次ニ御伺シタイコトハ、第四條ノ二ノ診
療所ノ開設ノ問題デアリマス、是ハ勿論命
令ヲ見ナケレバ明ニ申スコトハ出來ナイノ
デアリマスガ、内務大臣ノ所管デアリマス
ルコトハ勿論知ルコトガ出來ルノデアリマ
ス、所ガ今モ御話ニナリマシタヤウニ、近
時産業組合ノ中ニ、醫療利用組合ナルモノ
ガ各地ニ起テ居ルヤウニ聞及ンデ居リマ
ス、産業組合ノ認可ハ、御承知ノヤウニ農
林大臣ノ所管ニナテ居ルト思フノデアリ
マスガ、若シ醫療利用組合ヲ、産業組合ガ
是非サウ云フモノヲ起シタイ、斯ウ云フコ
トニナテ、農林大臣ガ宜シイテ許可ス
ルコトニナリマシテモ、其場合ニ最後ノ認
可權ト云フモノガ、内務大臣ニ存在シテ居

ル、斯ウ云フコトデ、事實上ハ或ハサウ云フ
ヤウナ矛盾衝突ハナイカモ分リマセウガ、
兎モ致シマスルト云フト、農林省ガ産業組
合ノ方カラ醫療利用組合ヲヤリタイト、斯ウ
云フヤウニ申出テモ、内務省ガ醫者ノ方ノ
壓迫——ト言ウテハ語弊ガアルカモ分リマ
セウガ、サウ云フヤウナコトニ依ッテ、ドウ
モソレハ困ルト云フヤウナコトニナリハシ
ナイカ、此醫療利用組合ノ、農林省所管ト
内務省所管ノ、開設ノ問題ニ付テ、御意
見ヲ伺ヒタイノデアリマス

次ニ御伺シタイモウ一ツノ點ハ、先程モ
皆サンガ御尋ニナッタ、地方長官ガ、衛生官
吏ヲシテ診療録ヲ査閲セシムルト云フ點デ
アリマスガ、貴族院ニ於キマス所ノ質問應
答ヲ伺ヒマス、衛生官吏ハ單ナル警察官
デハナイ、醫師ヲシテヤルノデアアル、又必
要ノアル場合ニハ藥劑師ヲヤルノデアアル、
斯ウ云フヤウニ答ヘテ居ルヤウニ聞及ブノ
デアリマスガ、此場合ニ衛生官吏ノ中ニ、齒
科醫師ノ診療録ヲ調査スル時ニ、今ノ醫師
ダケ、或ハ藥劑師ダケヲヤルノデアアルカ、
齒科醫師ニ對シマシテハ、齒科醫師ノ衛生
官吏ヲヤルノデアアルカ、若シ單ナル醫者デ
アルト云フ場合ニ於キマシテハ、齒科醫師
ノ點ニ於テ色々不備缺點ガアルヤニ考ヘル
ノデアリマスガ、其點ハドウデアアルカ、先
ヅ是ダケヲ伺フテ置キマシテ、機會ガゴザ
イマシタナラバ、委員會デ伺タイト思ヒマ
ス(拍手)

(政府委員大島辰次郎君登壇)

○政府委員(大島辰次郎君) 只今ノ御質問
ノ第一ノ點ハ、今回ノ醫師法改正案ニ於キ
マシテ、社會政策的ノ考慮ガ法文ノ上ニ拂
ハレテ居ラスデハナイカト云フ話デアリマ

ス、御話ノ如ク、法文ノ上ニ直接社會政策
的ノ事ヲ謳フテハゴザイマセウケレドモ、
第四條ノ二ノ條文ニゴザイマス「診療所ノ
開設、構造、設備及管理ニ關シ必要ナル事
項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム」トナテ居リマシ
テ、診療所ノ開設ヲ申請致シテ參リマス者
ガアリマス場合ニ於キマシテハ、地方長官
ガソレヲ能ク調べマシテ許可スル譯デアリ
マスガ、其場合ニ例ヘテ申シマスルナラ
バ、先程御話ノアリマシタ醫療組合ノ如キ
モノニ對シマシテハ、ソレガ健全ニシテ、
醫療上差支ナイモノデアリマスルナラバ、
ソレハ許可致ス積リデアリマス

ソレカラ第二ノ點ハ、此醫師法改正案ノ
審議ノ當初ニ於テハ、第一條ノ醫學專門學
校ノ指定ガ、現行法デハ文部大臣ダケデア
ルケレドモ、文部大臣ト並ンデ内務大臣ノ
指定ト云フ字句ガアッタノガ、ドウ云フ譯デ
無クナッタカト云フ御尋デアリマスガ、其點
ニ付キマシテハ、内務省ト文部省ト能ク協
議ヲ致シマシタ結果、文部大臣ガ指定サレ
マスル場合ニ、内務省ノ意見ヲ聽カレマシ
テ、ソレニ對シテ内務省ハ、自分ノ信ズル所
ヲ其處ニ述ベルト云フコトニ致シマシテ、
兩省ノ折合ガ付キマシテ、茲ニ條文カラ其
字句ガ省カレタノデアリマス、ソレカラ
第六條ノ二ノ地方長官ハ必要ノアリマ
ス時ニ、衛生官吏ヲシテ診療録ヲ査閲
セシムルト云フコトニナテ居ルガ、其衛生
官吏ノ中ニ、齒科醫師ヲ含マナイデハナイ
カト云フ御話デアリマス、御承知ノ如ク只
今各府縣ニ於テ衛生課ガアリマシテ、其處
ニ醫師ハ居リマスケレドモ、齒科醫師ノ居
リマス所ハ殆ド無イト私ハ今考ヘテ居リマ
スガ、サウ云フ譯デアリマスカラ、實際査閲

スル場合ニ醫師ガ行クト云フコトヲ申シタ
ノデアリマス、將來此齒科醫者ガ各府縣ニ配
置サル、ヤウナ時機ニナリマシテ、サウシ
テ且ツ第六條ノ二ニ依リマスル査閲ヲ致ス
ベキ事件ノ内容ガ、齒科醫師ノ關係デアリ
マスレバ、齒科醫師ヲシテソレヲ査閲セシ
ムルコトニナルカト考ヘルノデアリマス、
尙ホ産業組合ニ依ル醫療組合ニ對シ、内務
省ハ許可ノ場合如何ナル方針ヲ執ルカト云
フ御話デアリマスガ、先程申上ゲマシタ通
リ、健全ナル産業組合ガ出來マスルコトハ、
私共ト致シマシテモ、ソレハ固ヨリ歡迎ス
ル所デアリマス、醫療ノ普及ト云フ點カラ
申シマシテ、是ハ固ヨリ適當ナコトデア
ルト存ズルノデアリマス(拍手)

○議長(秋田清君) 質疑ハ終局致シマシ
タ、日程第三、右各案ノ審査ヲ附託スヘキ
委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第三 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員
ノ選舉

○上田孝吉君 兩案ヲ一括シテ議長指名十
八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議
アリマセウカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、
仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第四、樺
太地方鐵道補助法中改正法律案ノ第一讀會
ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス

委員長原惣兵衛君

第四 樺太地方鐵道補助法中改正法律
案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一樺太地方鐵道補助法中改正法律案（政府提出）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和八年三月七日

委員長 原 惣兵衛

衆議院議長秋田清殿

（原惣兵衛君登壇）

○原惣兵衛君 樺太地方鐵道補助ニ關スル改正法律案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告致シマス、本案ハ十年間ノ補助期間ヲ十五年間ニ延バスト云フ案デアリマシテ、内容ニ付テ反對ノ方ハ誰モナカッタノデアリマス、唯補助ヲ致シマスニ付テ、地方鐵道ノ會社方補助ノ内容及會社ノ營業狀態ニ付テ、少クトモ補助ハ南新開、敷香間ノ鐵道ヲ建設スルト云フコトガ、補助ノ内容ノ趣旨ニナッテ居ルノデアリマスカラ、其點ハ何處マデモ建設スルト云フコトニシテ實ハナクテハナラナイガ、政府ハ此點ニ付テドウデアルカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ極力會社ヲ督勵シテ、樺太發達ノ爲ニ建設ヲドウシテモヤラシメヨウト云フコトヲ考ヘテ居リマスト云フ御答辯ガアリマシタ、斯クシテ滿場一致ヲ以テ原案ヲ可決致シマシタ、此段御報告致シマス（拍手）

○議長（秋田清君） 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

（異議ナシト呼フ者アリ）

○議長（秋田清君） 御異議ナシト認メマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○上田孝吉君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決アラント望ミマス

官報號外 昭和八年三月十日 衆議院議事速記第二十四號 樺太地方鐵道補助法中改正法律案

○議長（秋田清君） 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

（異議ナシト呼フ者アリ）

○議長（秋田清君） 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

樺太地方鐵道補助法中改正法律案

第二讀會（確定議）

○議長（秋田清君） 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定致シマシタ（拍手）日程第五、第六ハ提出者同一ノ議案ナルニ依リ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

（異議ナシト呼フ者アリ）

○議長（秋田清君） 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第五、小作調停法中改正法律案、日程第六、借地借家調停法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者松木弘君

第五 小作調停法中改正法律案（牧野賤男君外九名提出） 第一讀會

第六 借地借家調停法中改正法律案（牧野賤男君外九名提出） 第一讀會

小作調停法中改正法律案

小作調停法中左ノ通改正ス

第十六條 當事者、總代及利害關係人ハ自身出頭シ又ハ辯護士ヲ代理人トシテ出頭セシムルコトヲ要ス

前項ノ代理ニ付テハ民事訴訟法中訴訟代理人ニ關スル規定ヲ準用ス

借地借家調停法中改正法律案

借地借家調停法中左ノ通改正ス

第七條 當事者及利害關係人ハ自身出頭シ又ハ辯護士ヲ代理人トシテ出頭セシムルコトヲ要ス

前項ノ代理ニ付テハ民事訴訟法中訴訟代理人ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十二條中「第七條第一項但書第二項」ヲ削ル

（松木弘君登壇）

○松木弘君 只今議題トナリマシタ小作調停法中改正法律案、借地借家調停法中改正法律案ノ提案ノ理由ヲ簡單ニ説明致シマシテ、諸君ノ御協賛ヲ仰ギタイト存ジマス、現行ノ小作調停法、借地借家調停法竝ニ商事調停法、金錢債務調停法、此調停法ニ於キマシテ、當時者、利害關係人ガ代理人ヲ選任スル場合ニ於キマシテハ、裁判所ノ許可ヲ要スルト云フ制限ノ規定ヲ設ケラレテアルノデアリマス、此規定ヲ改正致シマシテ、辯護士ガ代理人タル場合ニ於キマシテハ、裁判所ノ許可ヲ要セザルコトニシタイト云フノガ、提案ノ趣旨デアアルノデゴザイマス、此小作調停法ト借地借家調停法ヲ改正スルコトニ依リマシテ、商事調停法、金錢債務調停法モ準用規定ニ依ッテ、當然改正セラレ、コトニナルノデアリマス、御承知ノ如ク辯護士ハ司法機關ノ一ツト致シマシテ、國民ノ權利、利益ヲ擁護シ、司法權ノ運ニ關シテ、重要ナル地位ヲ有シテ居リマスルコトハ、申上ゲルマデモナイコトデアリマシテ、一昨日ノ本會議ニ於キマシテ、辯護士法案ガ提案サレマシタ際ニモ、司法大臣ヨリ辯護士ハ司法機關ノ一ツデアッテ、其職責ハ極メテ重要ナル職責ヲ有スルモノデアラ、司法官ト辯護士ニ依ッテ、司法權ハ運用セラレルモノデアルト云フ趣旨ノ説明ガ

アッタコトニ依ッテモ、明白デアルト信ズルノデアリマス、而シテ辯護士ハ、現行ノ法制ノ下ニ於キマシテハ、民事、商事、非訟事件、行政、總テノ事件ニ於テ、何等ノ制限ナキ代理人トシテ出廷スルコトガ出來ルニ拘リマセズ、獨リ調停法ニ於テ、斯ノ如キ制限ヲ設クル必要ハ毫モ認メナイノデアリマス、現行ノ調停法ノ制定ノ立法精神ニ顧ミマスルト、何等根據アル理由ハナイノデアリマシテ、現ニ金錢債務調停法ノ委員會ニ於キマスル政府委員ノ説明ヲ聽キマシテモ、唯辯護士ガ代理人トナルコトハ非常ニ困ルト云フ、此一言ニ過ギナイノデアリマス、思フニ辯護士ガ代理人トナルコトハ、調停事件ヲ取扱ヒニクイ、或ハ辯護士ガ代理スルコトニ依ッテ調停ヲ紛糾セシムルト云フガ如キ懸念ニ過ギナイト思フノデアリマス、併ナガラ此調停法ヲ、今日マデ實際ニ運用致シ來リマシタ其實績ニ顧ミマスルト云フト、辯護士ガ代理人トシテ參加スルコトニ依ッテ、此調停ハ極メテ妥當公正ニ、圓滿ニ、急速ニ、進行スルト云フ事實ヲ、現ニ表ハシテ居ルノデアリマシテ、裁判所モ寧ロ辯護士ハ代理人トシテ出廷スルコトヲ、今日ハ歡迎シテ居ルト云フ状態デアリマス、斯ノ如キ運用ノ実績ニ鑑ミマシテモ、辯護士ノ司法權ニ對スル地位ニ鑑ミマシテモ、之ヲ改正スルノ必要アリト認メマシタカラシテ、本改正案ヲ提出致シマシタ次第デアリマスルカラ、ドウゾ御審議ノ上協賛アラント御願致シタイノデアリマス（拍手）

○議長（秋田清君） 本案ニ對シテ質疑ノ通告ハアリマセヌ

官報號外 昭和八年三月十日 衆議院議事速記第二十四號 樺太地方鐵道補助法中改正法律案

第一讀會 五二九

○上田孝吉君 兩案ハ一括シテ安達謙藏君外一名提出、調停申立事件ノ手續費用救助ニ關スル法律案外二件ノ委員會ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第七、第八ハ同種議案ナルニ依リ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第七、刑事訴訟法中改正法律案、日程第八、刑事訴訟法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、順次提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス、日程第七提出者一松定吉君

第七 刑事訴訟法中改正法律案(原夫次郎君外九名提出) 第一讀會

第八 刑事訴訟法中改正法律案(原夫次郎君外十名提出) 第一讀會

刑事訴訟法中改正法律案

刑事訴訟法中左ノ通改正ス

第一百十三條 勾留ノ期間ハ二月トス已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ其ノ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ一月以内ノ期間ヲ定メテ之ヲ更新スルコトヲ得

刑事訴訟法中改正法律案

刑事訴訟法中左ノ通改正ス

第二十七條第四項中「及第二十九條」ヲ削

第二十九條 削除

第三十條中「前條ノ場合ヲ除ク外」ヲ削ル
第三十五條第三項中但書ヲ削ル
〔一松定吉君登壇〕

○一松定吉君 諸君、只今上程セラレテ居リマス刑事訴訟法中改正法律案ハ、現行刑事訴訟法ノ第一百十三條ヲ改正セントスルモノデアリマス、第一百十三條ハ「勾留ノ期間ハ二月トス特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ更新スルコトヲ得」ト規定セラレテ居リマス、之ヲ如何様ニ改正スルカト申シマスルト「勾留ノ期間ハ二月トス已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ其ノ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ一月以内ノ期間ヲ定メテ之ヲ更新スルコトヲ得」ト、斯様ニ改正シタイト云フノガ本案ノ趣旨デアリマス、然ラバ現行刑事訴訟法ト、此改正法案ト何處ガ違フカト云フコトヲ、極ク簡單ニ申上ゲマスルナラバ、現行刑事訴訟法ハ「特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ」ト、斯ウ云フコトニ定メラレテ居ルノデアリマスガ、改正法案ハ「已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ」ト、斯様ニ其範圍ヲ制限致シタルデアリマス、ソレカラ現行法ニ於キマシテハ、理由ヲ附スルト云フコトガ書イテアリマセヌ、唯「決定ヲ以テ之ヲ更新スルコトヲ得」トアルノヲ、改正法ニ於キマシテハ「理由ヲ附シタル決定ヲ以テ」ト、斯様ニ改正ヲ致シタイノデアリマス、又現行法ハ「之ヲ更新スルコトヲ得」トアル結果、二箇月勾留シテ置イタルモノヲ更新スル時ニ、又二箇月更新スルコトガ出來ルト云フコトニナツテ居リマスノヲ、改正法案ハ一箇月ダケノ更新ヲ許スト云フコトニナツテ居ルデアリマス、以上三點ガ

現行法ト違フデアリマス

何ノ爲ニ斯様ナ改正法案ヲ提出スルカト

言ヒマスルト、今日被告人ノ勾留セラレテ居リマス實際ヲ見マスルト、二箇月位放ラカシテ置キマシテ、サウシテ二箇月ノ期間ガ済ムト、更新又更新、甚シキハ六箇月若クハ一年ノ長キ間勾留シテ置ク、而モ甚シキハ其間ニ於テ面接ヲ禁止シタリ、或ハ文書ノ授受ヲ禁ジタリセラル、ト云フガ如キコトガ行ハレテ居ル有様デ、非常ニ人權ガ蹂躪セラレテ居ルデアリマス、ソレガ爲ニ臣民ノ權利ヲ尊重シナケレバナラヌト云フ精神カラ、之ヲ改正シナケレバナラヌイト云フ趣旨ノ下ニ、第四十五議會ニ於キマシテ、勾留ヲ無暗ニシテハイケナイ、人權ヲ徒ラニ蹂躪ルヤウナコトデハイケナイ、之ニ對シテ相當ノ制限ヲ置カナケレバナラヌト云フ意味ニ於キマシテ、二箇月以上勾留ハイケナイノダ、若シソレ以上勾留スル必要ガアツタ時ニハ、理由ヲ附シタル決定ヲ以テ勾留ヲ繼續スルト云フコトニナラナケレバナラナイコト、シテ、豫審判事ノ不當處分ヲ抑制シヨウト云フ趣旨ノ下ニ、第一百十三條ガ規定セラレタノデアリマス、然ルニ今日ノ現狀ヲ見マスルト、豫審判事ガ勾留處分ニ附シテ居リマス者ヲ、二箇月ニテ勾留ヲ更新シ、又新ニ二箇月經テ更新スルト云フヤウナコトヲ、平氣デヤ、テ居ル事實ガ非常ニ多イデアリマシテ、勾留セラレテ居ル本人ハ申ス迄モアリマセヌ、ソレ等ノ者ノ親族、家族ハ勿論、友人故舊ニ至ルマデ、見ルモ氣ノ毒ナ狀態ヲ繰返サレテ居ルデアリマス、斯様ナ事ハ何トカシテ之ヲ是正シナケレバナラナイ、殊ニ選舉違反等ノ場合ニ於キマシテハ、豫審ノ審理ガ

遅延ニ次グニ遅延ヲ以テセラレ、勾留ニ次グニ勾留ヲ以テセラレ、其ノ間面會ヲ許サレヌバカリデナク、差入ヲ禁ゼラレ、長イ間勾留セラレ、ノ事實ガ多イデアリマス、擔任辯護士ガ豫審判事ニ交渉致シマシテモ、中々調ガ進捗セズ、面會ハ許シマセヌ、勾留ハ相變ラズ繼續セラレ、ト云フノガ、今日ノ實情デアリマス、是デハ折角勾留期間ニ制限ヲ設ケテ、不當ニ被勾留者ノ權利ヲ蹂躪ラナイヤウニシナケレバナラナイト云フ立法ノ精神ハ、無理解ナル官憲ノ行動ニ依リ蹂躪セラレ、ト云フ次第デアリマス、是非之ヲ改メナケレバナラヌデアリマセヌカ、次ニ今日行ハレテ居ル勾留ノ更新決定ハ、如何ナル様式ニナツテ居ルカト申シマス、唯繼續ノ必要ガアルト云フコトヲ書イタバカリデ、何故ニ勾留ヲ繼續ノ必要ガアルト云フ理由ハ、明記セラレテ居ラヌノデアリマス、而モ不動文字ヲ以テ、此決定文ヲ印刷セラレテ居ルト云フコトガ、今日ノ現狀デアリマス、故ニ是デハイケナイ、ドウ云フ理由デ繼續ノ必要ガアルカト云フコトヲ、此更新決定ニ明記セシメ、サウシテ人々ヲシテ、成程はナラバ已ムヲ得ナイコトダト云フ考ヲ起サシムルヤウニシナケレバナリマセヌ、斯クスルコトニ依ッテ、其更新決定ニ認メラレタ理由ノ被勾留者ハ解消ニ努メ、成ベク早く保釋ノ恩典ニ浴スルコトニ留意スルヤウニナルノデアリマス、是レ更新決定ニハ理由ヲ附セナケレバナラヌト云フコトニ改正スル必要ガアルノデアリマス

以上申上ゲタコトガ本案提出ノ理由デアリマス、今日二箇月以上勾留ノ被告人ガ非常ニ數多クアルト云フヤウナコトハ、手許

ニ取調ベタモノガアリマスケレドモ、詳細ハ委員會ニ讓ルコト、シ、此處ニハ簡單ニ提案理由ヲ申述ベルニ止メマス(拍手)

○議長(秋田清君) 日程第八、提出者内藤正剛君

(内藤正剛君登壇)

○内藤正剛君 諸君、本案ハ刑事訴訟法中忌避ノ申立ニ關シマスル、從來多クアリマシタ所ノ非難ト、且ツ屢、陷リ易カッタ所ノ弊害ヲ除去致シマス爲ニ、又之ヲ改メマスガ爲ニ、將來有ル場合ニ於ケル禍根ヲ絶チマシテ、司法權ノ神聖ヲ保持シ、又威信ヲ高メヨウト云フノガ、改正セントスル趣旨デアルノデアリマス、是ハ各派共同提案ノモノデアリマスガ、幸ニ便宜ト致シマシテ、改正ノ諸點ヲ讀ムコトニ致シマス

第二十七條ノ四項ノ中「及第二十九條」トアリマス六字ヲ削リノデアリマス、第二十九條ハ全部削除スルノデアリマス、第三十條ノ中「前條ノ場合ヲ除ク外」トアリマス十字ヲ削リノデアリマス、第三十五條第三項ノ中「但書以下ノ三十四字ヲ削リノデアリマス、而シテ改正ノ重點ハ、第二十九條ノ全部削除ニアルノデアリマス、即チ之ヲ削除シマスル結果ト致シマシテ、二十七條ノ四項ノ中、先程申シマシタガ「及第二十九條」ト云フ文字ガ要ラナクナルノデアリマス、抑、判事ガ偏頗ナ裁判ヲ爲ス疑ガアルコトヲ虞レマシテ、忌避致シマスルノニハ、必シモ其人ノ心ノ公正ヲ疑フベキ原因ノアル場合ニ限ルベキモノデアリマセヌノデ、客觀的ニ公平ナル判斷ヲナスニ故障トナル所ノ事情ガ存シマスル時ニ於キマシテハ、出來ルノデアリマス、所ガ此事情ト云フモノハ、固ヨリ各箇ノ場合ニ於

キマシテ決スベキ問題デハアリマスケレドモ、審理ニ際シマシテ、故ラニ誘導ヲシタリ、威壓スルトカ、假定的ニ事實ノ誇張スル場合ハ無論入ルノデアリマス、斯ノ如ク公正ナル判斷ヲ仰グコトニ疑フ生ジマシテ故障ガアル時ニハ、忌避ノ申立ヲ致シマシテモ、現在ノ狀況ノ下ニ於キマシテハ、二十九條ノ「訴訟ヲ遅延セシムル目的ノミヲ以テ爲シタルコト明白ナル忌避ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ」ト規定シテ居リマスノデ、此場合ニハ二十八條ノ規定ヲ適用シナイト云フコトニナラズ居リマスカラ、忌避セラレタニモ拘ラズ、其判事ハ自ら忌避セラレタル決定ニ參畫スルコトガ出來マス、又申立却下ノ裁判ヲモ、自ラスルコトガ出來ルノデアリマシテ、現在ハソレニ依リテ居ルノデアリマス、故ニ此規定ガアリマス爲ニ、幾多ノ忌ムベキ、又心ヲ寒カラシムベキ問題ガ生ジマシテ、知ラズ識ラズノ間ニ司法權ノ威信ト云フモノト、司法權ノ神聖ト云フモノガ失墜サレツ、アリマスノガ今日ノ狀態デアリマス、故ニ訴訟遅延ノ目的ヲ以テ爲シタルコト明白ナル申立ト云フノハ、客觀的ニ何人ガ見テモト云フ風ニ解釋スルコトニハ、何人モ一定シテ居ルノデアリマスガ、實情ハ之ニ反シマシテ、無理解ニ審理ヲ急グト云フコト、或ハ感情ヲ以テ處斷スルコト云フコトニ依リテ、訴訟關係人保護ノ規定、或ハ權利保護ノ規定デアルニ拘ラズ、此法ハ死シテ居ルノデアリマシテ、却テ毒スル結果ヲ生ジテ居ルノデアリマス、私共ガ見聞致シマスル所、常ニ忌避ノ申立ハ、殆ド審理ノ當務者ノ主觀的觀念ノ下ニ取扱ハレテ居リマシテ、却下決定ヲスルト共ニ、直チニ事件ヲ進行シ、神ナラザル人

ノ取扱デアリマスカラ、其情勢ハ關係人ヲシテ公正ト云フ信念ヲ懷カシメルト云フコトハ、私ハ無イト言フノデアリマス、多ク此點ニ疑フ持ツノデアリマシテ、此情況ノ擴大ハ延テ國法ヲ輕ンズルト云フ結果ニモナリ、不満足不信ヲ思想界ニ及シマスル是ガ爲ノ影響ハ、甚大ナモノガアルト思フノデアリマシテ、國家ノ前途ノ爲ニ私共ハ洵ニ憂ヘテ居ルノデアリマス、殊ニ最近ノ實例ト致シマシテハ、東京ニ於テ有力ナル辯護士ノ方ガ、忌避申立ヲサレタルコトニ依リ、懲戒訴追ヲ受ケラレタ、幸ニ此事件ハ無罪トナレ、圓滿ナル局ヲ結ビマシタケレドモ、此法文アルガ爲ニ、迷惑シタル人ハ少クナイノデアリマス、此法ハ殆ド現在デハ習慣的ニ漫然ト活用セラレテ居リマシテ、審理不十分ニ泣イテ居ル所ノ人ハ測リ知ルコトガ出來ナイ程アルノデアリマス、故ニ此法文ノ規定ヲ廢シマシテ、申立ガアリマシタ場合ニハ、他ノ判事ヲシテ事件ニ關與セシメ、疑惑ヲ避ケテ、サウシテ法ノ威信ヲ保持シコトヲ私ハ期シタイト云フノデアリマス、政府ハ曩ニ此現行法制定ノ當時ニ於テ、客觀的ニ何人ガ見テモ、訴訟ヲ遅延セシムル目的ヲ以テ爲シタルコトガ明白ナル場合ノ外ハ、是ハ適用セナイト云フコトヲ、速記録ニ依リマスル釋明セラレテ居リマス、サウシテ唯此法文ヲ何故ニ置キタイカト言ヘバ、忌避權濫用ヲ防止スルト云フコト、訴訟手續ノ進行ヲ阻碍スル爲ニ置イテ置キタイト云フコトヲ述ベテ居ラレルノデアリマスガ、實ニ今日ニ於テハ此弊害ガ伴ウテ、數限リガナイノデアリマシテ、人々ハ主觀的ニ、色々顔ノ異ル如ク心モ變ルノデアリマシテ、他ノ人々ヲシテ本當ニ公正ニ裁判ヲセシメ

ルト云フコトニ私共ハシタイト云フノガ、此法律案ヲ提出致シタ所以デアリマス、二十九條以外ノ法文ハ、二十六條、二十七條二項、三項、是ハヤハリ前同様ヲ結論ノ場合デアリマシテ、三十條ノ分ハ訴訟手續ノ停止ニ關スル問題デアリマス、忌避ノ申立アル時ハ、ヤハリ訴訟ハ一時停止シタイト云フノデアリマシテ、是ハ二十九條ノ趣旨カラ御考察ヲ煩シタイト思ヒマス、三十五條ハ、裁判所書記ニ關スル準用規定ノ廢止デアリマス、之ヲ要スルニ、今日幾多起テ居リマスル有ル弊害ヲ除去スルコトニ依リマシテ、却テ訴訟手續ガ敏活ニナリ、裁判ノ威信ハ何處マデモ保タレルト云フノデアリマスカラ、政府ニ於テモ賛成願ヒタイト思フノデアリマス、之ヲ以テ提案ノ說明ト致シマス(拍手)

○上田孝吉君 兩案ヲ一括シテ一松定吉君外三名提出、刑事訴訟法中改正法律案外十三件ノ委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第九、民事訴訟法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者中野勇治郎君

第九 民事訴訟法中改正法律案(中野勇治郎君外九君提出) 第一讀會 民事訴訟法中改正法律案 第一讀會 民事訴訟法中左ノ通改正ス 第三百五十九條 削除

〔中野勇治郎君登壇〕

○中野勇治郎君 本案提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、本案ハ御覽ノ通り極メテ簡單ナル法文デゴザイマスルガ、其理由ハ極メテ重大デアアルノデゴザイマス、凡ソ裁判ガ國民ニ對シテ威信ヲ有シテ居リマスル所以ノモノハ、即チ其裁判ガ適正公平デアアルカラデゴザイマス、而シテ裁判ガ果シテ適正公平ナルヤヲ如何ニシテ知ルカト云ヘバ、其裁判ニ附セラレタル所ノ理由ニ依リテノミ之ヲ知ルコトヲ得ルノデアリマス、刑事被告人ニ有罪ノ判決ヲ爲シ、或ハ民事ニ於テ原告若クハ被告ノ敗訴ノ裁判ヲ言渡ス場合ニ於キマシテ、其裁判ニ理由ガアリマセヌケレバ、果シテ其裁判ハ服從シテ宜シイカドウカト云フコトハ、關係者ハ分ラヌノデアリマス、隨分親切丁寧ナル理由ヲ附シタル裁判ニ對シマシテモ、相當控訴若クハ上告ヲ爲シテ居ル今日ノ世ノ中ニ於キマシテ、理由ヲ附セズシテ裁判ニ服從シロト云フ、斯様ナ壓制ナ裁判ガ何處ニアルノデゴザイマセウカ、殊ニ區裁判所事件ト云ヘバ、金高コソ少イノデゴザイマセウガ、其件數ハ極メテ多數デアリマス、ノミナラズ富者ノ百万圓ノ事件ヨリモ、貧者ノ百圓ノ事件ノ方ガ、如何ニ其生活ニ於テ重大デアアルカト云フコトモ考ヘナケレバナラスノデアリマス（拍手）然ルニ拘ラズ、此裁判ニ理由ヲ附セナイト云フ民事訴訟法ノ三百五十九條ト云フモノハ、實ニ無法極マル所ノ法律デアルト申サナケレバナラスノデアリマス、諸君、御承知ノ通り司法權ハ、畏多クモ 天皇ノ名ニ於テ行ハレルモノデアルト云フコトハ、憲法ニ明記シテアリマス、御承知ノ方モゴザイマセウガ、憲法ガ

實施セラレタ當時ノ裁判ニハ、即チ其判決書ニハ、御紋章ガ印刷セラレテアリマシテ、其判決書ノ末尾ニ至リマシテハ、天皇ノ名ニ於テ此裁判ヲ爲スト書カレテアッタノデアリマス、爾來ソレハ略サレテ居リマシテ、今日ハ裁判ニ理由サヘ附セナイト云フコトニナリマシタコトハ、如何ニ裁判ガ墮落致シタトデモ申シマセウカ、私ハ法治國ト致シマシテ、甚ダ遺憾ニ存ズル次第デアリマス（拍手）斯ノ如キ民事訴訟ガドウシテ帝國議會ヲ通過シテ來タカト思フト、今更遺憾ニ思フ次第デアリマス、諸君、故ニ此裁判ノ威信ヲ保ツ上ニ於キマシテ、此法文ハ是非削除セネバナラス、殊ニ今ヤ司法部ヨリハ續々ト共產黨關係者ガ出マシテ、裁判所ノ威信ハ將ニ地ニ落チンシテ居ル際デアリマス、セメテ裁判ノ理由デモ附シテ、國民ニ幾ラカノ安心ヲ與ヘルト云フコトモ、亦時節柄最モ必要ナコトデアルト考ヘル次第デアリマス、但シ司法部ハ、此結果ハ經費ヲ要スルト言ハレルカモ知レヌノデアリマス、東京區裁判所ノ例ニ依リマシテモ、判事ハ隔日勤務デアリマシケレドモ、一日ノ一人ノ判事ガ三十件以上ゾ、擔任シテ居リマシテ、其判事ガ其日ニ終決シタ事件ノ判決書ヲ書キ、又明後日取調ベル事件ノ下調ヲシナケレバナラス、中々容易デナイト云フコトヲ私ハ目撃シテ居ルノデアリマス、故ニ區裁判所ノ事件ニ、一々裁判ノ理由ヲ附スルト云フコトニナリマスナラバ、當然判事ノ數ヲ増サナケレバナラスト云フコトヲ、司法部ハ直チニ申サレルコトデアラウト存ジマス、是ハ私モ亦御尤デアルト存ジマス、併ナガラ諸君、僅ナ司法部ノ經費ト、裁判ノ威信ニ係ル判

第一讀會

決ノ理由ヲ附スルカ否カト云フ問題トハ、比較ニナル問題デハアリマセヌ、若シ大藏省ガ此司法部ノ費用ノ増加ニ反對スルナラバ、司法部ハ寧ロ經濟ノ獨立ヲ主張ナスタラ如何デセウカ、司法部ノ收入ハ唯印紙ダケデハナク、登記所ノ收入ト云フモノハ實ニ莫大ノモノデアリマス、司法部ハ國家ニ對スル財源省ノ一ツデアリマス、自分ノ所ニ取ツタ金ハ皆大藏省ニ持ッテ行カレテ、サウシテ宛ガヒ扶持デ、司法省ハビーノシテ居ルノデアリマセヌカ、是ハ司法部タルモノハ、此場合敢然トシテ立ッテ、若シ此爲ニ大藏省ガ文句ヲ言フナラバ、司法部ノ獨立ヲ主張シテ貫ヒタイト云フコトヲ、最モ希望スル一人デアリマス、故ニ何卒此民事訴訟法ノ三百五十九條ハ、是非削除セラレマシテ、裁判ノ威信ヲ保チ、國民ノ多數、而モ細民階級ノ者ヲシテ、裁判ノ威信ニ服從セシメルヤウニ致シタイト思ヒマシテ、本案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒皆サンノ御贊成アラントヲ希望致シマス（拍手）

○上田孝吉君 本案ハ一松定吉君外三名提出、刑事訴訟法中改正法律案外十五件ノ委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長（秋田清君） 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（秋田清君） 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十、第十一、第十二ハ、同種ノ議案ナルニ依リ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（秋田清君） 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ日程第十、山下谷次君外二名提出、度量衡法中改正法律案、日程第十一、武知勇記君外五名提出、度量衡法中改正法律案、日程第十二、野田文一郎君外一名提出、度量衡法中改正法律案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、順次提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者一瀨一二君

第十 度量衡法中改正法律案（山下谷次君外二名提出） 第一讀會

第十一 度量衡法中改正法律案（武知勇記君外五名提出） 第一讀會

第十二 度量衡法中改正法律案（野田文一郎君外一名提出） 第一讀會

度量衡法中改正法律案

度量衡法中左ノ通改正ス

第六條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ藥局ヲ開設スル藥劑師ニシテ溫度計及玻璃製枰ヲ販賣セムトシ其ノ旨行政官廳ニ届出ヲ爲シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條第一號ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第六條ノ届出ヲ爲シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

度量衡法中改正法律案

度量衡法中左ノ通改正ス

第六條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ藥局ヲ開設スル藥劑師ニシテ溫度計及玻璃製枰ヲ販賣セムトシ其ノ旨行政官廳ニ届出ヲ爲シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條第一號ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ第六條ノ届出ヲ爲シタル者ハ此ノ
限ニ在ラス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

度量衡法中改正法律案

度量衡法中左ノ通改正ス

第六條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ藥局ヲ開設スル藥劑師ニシテ溫度
計及玻璃製枴ヲ販賣セムトシ其ノ旨行
政官廳ニ届出ヲ爲シタル者ハ此ノ限ニ
在ラス

第十四條第一號ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第六條ノ届出ヲ爲シタル者ハ此ノ
限ニ在ラス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(一瀬二君登壇)

○一瀬二君 提出致シマシタルノハ、
度量衡法中改正ニ關スル法律案デゴザイマ
ス、本案ハ既ニ五十六議會ニ於キマシテ、請
願及本會議ニ於キマシテ採擇トナシテ居ルモ
ノデアリマス、五十六議會ニ請願提出ノ趣旨及
理由ノ説明ヲサレタ速記録ノ一部分ヲ簡單ニ
朗讀致シマス「極ク簡單ナ案デゴザイマスガ、
現在「メートルグラス」ヤ體溫器ヲ藥劑師ガ賣
ル譯ニ行カナイ、ソレヲ賣ラシテ貰ヒタイ、度
量衡法ニ依リマス、藥局ヲ持テ居ル藥劑
師ガ體溫器ヤ「メートルグラス」ヲ賣ルニ
ハ、各府縣ノ認可ヲ得ナケレバナラス、其
爲ニ縣ニ依リマス、認可ヲ與ヘナイモノ
ガアリマシテ、態病人ヲ控ヘテ居リナガ
ラ、體溫器ヲ度量衡販賣店マデ買ヒニ行ク
ノデ、民衆ハ迷惑ヲ感ジテ居リマス、此點

ハ藥局ヲ持テ居ル藥劑師ニ賣ラセルヤウ
ニ、法律ヲ變ヘテ貰ヒタイト云フノガ、請
願ノ要旨デゴザイマス、之ニ對シテ牧野政
府委員ハ「至極同感デアリマス、而シテ商
工省ト致シマシテハ、各府縣ニ再三此趣旨
ヲ徹底スルヤウニ努メテ居リマスガ、ドウ
モ各府縣ニ於テヤカマシイコトヲ言ッテ、中
中免許ヲ致シテ居ラナイ、甚ダ遺憾デアリ
マス、隨テ法律改正ニ目下心配シテ居リマ
ス、各府縣ニモ重ネテ此趣旨ヲ申シ、諸君ノ
御希望ニ副フヤウニ努メタイト存ジマス」

ト答ヘラレ「岡田委員長、本件ハ採擇ノミ
ナラズ、進ンデ政府當局ハ速ニ請願ノ趣旨
ヲ實現セシムルヤウ御進メヲ願ヒタイト思
ヒマス」、「牧野政府委員、承知致シマシタ
以上ノ如ク委員會採擇後、本會議ニ於テ滿
場異議ナク採擇セラレタモノデゴザイマ
ス、然ルニ我國ノ衛生思想モ日々進歩シ
テ行クニ付キマシテハ、體溫器等ハ恐ラク
無イ家ハナイ、一寸壞レテ買ニ行カウト思
テモ、ドウシテモ容易ニ買ヒ得ラレナイ、
是ハ實ニ不便極マル話デアリマシテ、一例
ヲ申シマスレバ、東京藥局ガ二千四百軒
モアル、此内ニ許可ヲ有テ居ルノハ八百
軒位シカナイ、是ハ體溫器ヤ「メートルグ
ラス」ノ製造ヲ許シテ貰ヒタイト云フノト
ハ違フ、商工省ニ於テ嚴重ナル監督ノ下ニ
製造シ、其上ニ檢印ノ押サタ物ヲ賣ルノ
デアル、唯賣ルダケノ問題デアアル、藥劑師
デナクとも、斯ウ云フ物ハ何處デ賣ッテモ
宜イ譯デアアル、何ガ故ニ之ヲ早く實施シ
イカ、實ニドウモ吾々ハ了解ニ苦シム次第
デアリマス、詳細ノコトハ委員會ニ於テ申
上ゲマスガ、何卒滿場一致ヲ以テ御賛成ア
ランコトヲ御希望致シマス(拍手)……

○議長(秋田清君) 日程第十一提出者武知
勇記君

(議長退席、副議長著席)

(武知勇記君登壇)

○武知勇記君 提出致シマシタルノハ、
度量衡法中改正法律案ノ提案趣旨ヲ辯明
ヲ致ス爲ニ演壇ニ立タタノデアリマス
ガ、一瀬君ニ依ッテ詳細ニ論ジ盡サレマシ
カラ、極ク簡單ニ變タ方面カラ提案ノ辯明
ヲ致シテ見タイト思ヒマス、世ノ中ニハ法
律ニ依ッテ特別ノ保護ヲ受ケル者ト、其然ラ
ザル者トノ二ツガアリマスガ、不幸ニシテ藥
劑師ノ如キハ、後者ニ屬スルモノデアリマ
シテ、一例ヲ申上ゲマスル、國家ハ藥劑
師法ニ依ッテ藥劑師ノ身分職能ヲ保障致シ
テ居ルノデアリマス、藥劑師ニ非ザレバ調
劑ヲ爲スコトヲ得ズト規定シテ置キナガ
ラ、經過ノ例外規定トデモ申シマスガ、醫
師ノ調劑ヲ認メ、剩ヘ醫師ノ診療所ニ於ケ
ル醫師ノ家族看護婦、乃至女中ノ調劑ヲモ
認メテ居リマスルガ爲ニ、藥劑師ノ名ハア
テモ實ナク、二萬數千ノ劑界ノ諸君ハ、國
家ヨリ附與セラレマシタ資格免狀ヲ反古紙
同様ニシテ、仁丹ヤ、齒磨ヤ、砥粉、磨粉、
石鹼ト云々ヤウナ物ノ販賣人ニ成リ下ッテ
居ルコトハ、國家法制上ノ矛盾ガ齎シタ悲
シムベキ現象デアアルト私ハ斷言スルノデア
リマス、而モ是程處ゲテ居ルニモ拘ラズ、
現行度量衡ニ依リマスル、體溫計及液量
器ノ如キスラ、藥局ニ開設シテ居ル藥劑師
ニ販賣ノ自由ヲ與ヘテ居ラナイ、其販賣資
格ノ如キハ、地方長官ノ權限ニ一任シテ居
ルカラ、藥局當然ノ營業用具トモ看做スベ
キ體溫計、液量器ノ販賣ノ自由ヲ認メナイ
ノデアリマスガ、斯ノ如キハ唯單ニ藥劑師

ノ身分職能ヲ無視スルニ止ラズ、國家ハ法
律ヲ以テ藥劑師ヲ虐ゲルコトノ何ゾ甚シキ
ヤト言ハザルヲ得ナイノデアリマス(分
タ分タ)ト呼フ者アリ諸君、頻ニ分タト
仰ッシャッテ居ル人モアルヤウデスガ、私ハ
藥劑師ガ如何ニ虐ゲラレテ居ルカト云フ例
證トシテ、更ニ一例ヲ申上ゲタイ、藥劑師法
竝ニ藥品取締、藥品營業規則ニ依リマスル
藥劑師ニ對シマシテハ罰則規定ヲ設ケ、調
劑ノ過誤ヨリ生ズル危害防止ノ方法ヲ講ジ
テ居リマスルガ、他ノ人々ノ調劑ニ對シマ
シテハ此規定ガナイノデアアル、曩ニ申シ
マシタ通り、(度量衡ニ關係ガナイ)ト呼
フ者アリ)度量衡ニ關係ガアリマス、此度量
衡法ニ依ッテ、吾々ハ藥劑師當然ノ營業用
具ト看做スベキ物件ヲ賣ラサナイ、斯ノ如
ク法律デ藥劑師ノ權利ヲ虐ゲテ居ル爲ニ、
例證ヲ引カントシタモノデアッテ、關係ガア
ルト信ズルモノデアリマス、市中開業醫ノ
實際ヲ見マスレバ、現ニ醫師ガ調劑シテ居
ル事實ハ少イノデアアル、醫師自ラ殆ド調
劑ニ當ラズシテ、調劑ノ資格ナキ者、即チ
其家族又ハ看護婦、女中等ガ調劑ヲ致シ
テハ、最モ苛酷ナ罰則ノ規定ヲ設ケ、診斷處
方ノ學ヲ修メタ所ノ醫者ノ調劑ヲ認ムルト
スルモ、別ニ罰則ナク、殊ニ資格ノナイ者ニ
對シテ、其調劑ヲ公然默許シテ居ルノデア
テ其不備ハ、刑法ノ條項ヲ準用スルト通
辭ヲ構ヘルガ如キハ、洵ニ不公平ナ取締ト
斷ジナケレバナラス、斯ノ如ク法律ノ恩惠
ニ浴スルコトノ頗ル乏シイ藥劑師ニ對シテ、
藥局當然ノ營業用具ト看做スベキ體溫計或
ハ液量器ノ如キハ、之ヲ自由ニ販賣セシメ
テモ敢テ私ハ差支ナイト思フノデアアル、一

瀬君ノ説明ニモアリマシタ通り、既ニ第五十六議會ニ於テ、政府委員ハ明ニ其必要ヲ認メテ、法律ノ改正ヲ約束シテ居ルノデア、政府ノ約束シタコトハ、紺屋ノ明後日デ當ニナライカモ知レナイガ、吾々ハ院議ヲ以テ決議ヲ致シ、サウシテ藥局ヲ開設セル藥劑師ニ、其當然ノ營業用具デアリマスル液量器及體溫計ヲ、自由ニ販賣セシメタイト云フノガ本案提出ノ理由デアリマス

○副議長(植原悦二郎君) 佐藤理吉君
○佐藤理吉君 簡單デゴザイマスカラ、此席ヨリ御許シテ願ヒマス

○副議長(植原悦二郎君) 許シマス
○佐藤理吉君 提案ノ理由ハ前二君ニ依ッテ既ニ言盡サレテ居リマスカラ、簡單ニ此席ヨリ理由ヲ述ベマス、現行法ニ依リマスルト、地方長官ノ許可ヲ得テ販賣スルコトニナッテ居リマスカラ、地方長官ノ手心ニ依ッテ、此販賣ヲ左右サレテ居ルヤウナ嫌ヒガアリマス、現今ノ保健衛生上、一般家庭ニ必要缺クベカラザル用器トナッテ居ル物デアリマスカラ、此改正案ヲ提出シタ所以デアリマス、何卒御賛成アラシコトヲ希望シマス

○上田孝吉君 日程第十乃至第十二ノ三案ハ一括シテ政府提出、輸出絹織物取締法中改正法律案外五件委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(植原悦二郎君) 上田君ノ勸議ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ勸議ノ如ク決シマシタ、日程第十三、簡易森林火災保險法案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス
——手代木隆吉君

第十三 簡易森林火災保險法案(小山邦太郎君外十七名提出) 第一讀會
簡易森林火災保險法案

第一條 本法ニ依ル簡易森林火災保險ハ政府之ヲ管掌ス
第二條 簡易森林火災保險ニ於テハ政府カ森林ニ付火災ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スルコトヲ約シ保險契約者カ對價トシテ政府ニ保險料ヲ支拂フヘキコトヲ約スルモノトス

第三條 保險ノ目的ハ林齡二十年以下ノ森林トス
第四條 保險契約者ハ保險契約ノ申込ト同時ニ保險料ヲ拂込ムヘシ保險料ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 政府保險契約ノ申込ヲ承諾シタルトキハ保險證書ヲ作成シ之ヲ保險契約者ニ交付ス
保險證書ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 保險金額ノ標準ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
保險金額カ前項ノ標準金額ヲ超過シタルトキハ其ノ超過シタル部分ニ付テハ保險契約ハ無効トス

第七條 保險金額カ保險價額ヲ超過シタルトキハ其ノ超過シタル部分ニ付テハ保險契約ハ無効トス
第八條 政府カ填補スヘキ損害ノ額ハ其ノ損害カ生シタル地ニ於ケル其ノ時ノ價額ニ依リテ之ヲ定ム
前項ノ損害額ヲ計算スルニ必要ナル費用ハ政府之ヲ負擔ス

第九條 簡易森林火災保險ノ被保險者ハ森林所有者ニ限ル
保險ノ目的ヲ取得シタル者ハ保險契約ニ因リテ生シタル被保險者ノ權利義務ヲ承繼ス

第十條 保險契約ハ他人ノ爲ニモ之ヲ締結スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被保險者ハ當然其ノ契約ノ利益ヲ享受ス

第十一條 保險契約者又ハ被保險者カ簡易森林火災保險ニ關スル事項ニ付政府ニ對シテ民事訴訟ヲ提起スルニハ簡易森林火災保險審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

簡易森林火災保險審査會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第十二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險事務ノ一部ヲ市町村ヲシテ取扱ハシム

政府保險料受取ノ事務ヲ市町村長ヲシテ取扱ハシメタル場合ニ於テハ其ノ受取リタル保險料ノ百分ノ五ニ相當スル金額ヲ其ノ市町村ニ交付ス

附則
本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ地域ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
〔手代木隆吉君登壇〕
○手代木隆吉君 本案ノ趣旨ヲ辯明致シマス、本法律案ノ目的ハ、第一ニ林木ノ安固ヲ圖リ、第二ニ森林ノ金融ヲ圓滿ニ致シマシタ、林業ノ發達ニ資シヨウト云フノデアリマス、其主ナル點ニ付キマシテ説明ヲ申上ガマスレバ、御承知ノ如ク林木ノ育成ニハ多年ノ年月ヲ要シマシテ、相當ナル資本ヲ入レル譯デアリマスルガ、一度火災ニ罹リマスレバ、之ニ依ッテ巨額ノ損失ヲ來シテ居ルノデアリマス、政府ハ林業ノ發達ノ爲ニ種々ナル施設ヲ致シ、特ニ獎勵金ノ交付ノ制度モ設ケテアルノデアリマスルガ、六年度ニ於キマシテハ、獎勵金ヲ八十四萬圓交付ヲ致シ、之ニ依ッテ三萬五千町歩ノ造林ガ致サレテアルノデアリマスガ、一方同年度ニ於ケル火災ノ狀況ヲ見マスレバ、面積ニ於テ一萬七千五百町歩、損害額約二百萬圓ニ達シテ居ルノデアリマス、殊ニ此人工造林ノ幼齡林、即チ二十年生以下ノ造林地ハ、一度火災ニ遭ヒマス、全損ヲ來スヤウナ危險ガアルノデアリマシテ、此點ニ付テハ、是非保險制度ニ依ッテ、此材木ノ安固ヲ圖ル必要ガアル譯デアリマス、尙又金融ノ方面カラ申シマスレバ、斯様ナ保證ガナイ爲ニ、森林ニ對スル金融ハ頗ル困難デアリマス、今日五年度ノ統計ニ依ッテ見マスレバ、全國不動産ノ金融ガ六十一億一千餘萬圓デアリマスルガ、内、森林ニ對スル金融ハ一億五百万ニ過ギマセヌ、其歩合ヲ見マス

レバ、約六十分ノ一ニ過ギナイノデアリマス、斯様ナ次第デアリマシテ、此森林業者、造林業者ガ、非常ニ資本ヲ得ルノニ困難ヲ致シテ居ル状態ガ、之ニ依テ察セラル、ト思フノデアリマス、而シテ此保險法案、之ヲ國營ニ致ス譯デアリマスガ、只今民間ニ於テモ、此森林保險ヲ營ンデ居ル會社ガ四會社アリマス、大正九年ニ増資ヲシタノデアリマスガ、森林火災ノ此危險率ニ對スル統計ガ十分デアリマセヌ爲ニ、總テノ保險業ヲ營ム所ノ基本ハ確定ニナッテ居リマセヌ、隨テ此營業ニハ少カラザル不便ガアリ、其結果常ニ保險料ガ高率ニナッテ居ルノデアリマスガ、是亦已ムヲ得ナイモノト考ヘルノデアリマス、隨テ其外ニ、小面積ノ植林ニ對シテハ之ヲ取扱ハナイ、又殊ニ幼齡林即チ二十年以下ノモノハ、拒絕的ノ高率保險料ヲ定メマシテ、殆ド此保險ヲ拒絕シテ居ルヤウナ状態ニ在ル譯デアリマス、此點カラ申シマセバ、特ニ此幼齡林ヲ保護スル必要ガアル、幼齡林ガ左様ナ次第デ、營利會社ガ之ヲ營ムコトガ不便デアルト云フ點カラ、茲ニ非營利的デアアル所ノ國營保險ヲ營マナケレバナラヌト云フコトガ生ズル譯デアリマス、而シテ國營ニ致シマセバ、國ノ方デハ此造林ノ獎勵ヲ致シ、又火災ノ防禦ニ付テモ、ソレノ施設ヲ致シテ居リマスルシ、此施設ト相俟ッテ行クコトノ便利ガアリ、尙又國ガ營ム爲ニ、保險ノ普及及只今申上ゲマシタヤウナ小業者ノ加入ヲ促進スルコトガ出來ル、尙又我國

ノヤウニ、未ダ保險思想ノ幼稚ナル國ニ於キマシテハ、之ヲ國營ニスルコトニ依ッテ、此目的ヲ達成スルコトガ出來ル、尙又市町村ノ既設ノ施設ヲ利用スルノデアリマスルカラ、此點ニ於テモ少カラズ便利ガアリマス、其他危險ノ生ジタ場合ニ、是ガ支拂ニ對シテハ、國デアリマスカラシテ、非常ニ堅固デアアル、若シ營利會社デアラナラバ、茲ニ破産デアルトカ、或ハ支拂金額ノ減額デアルトカ、或ハ相互會社ニ依レバ、保險料ノ追徴ナド、云フコトガアル譯デアリマスルケレドモ、左様ナ心配ガナイ譯デアリマス、而シテ長年月ニ互ル所ノ事業デアリマスルカラ、國家事業トシテ亦適當デアルト云フ點カラシテ、國營ト致ス所ノ趣旨デアリマス、而シテ保險ノ目的ハ二十年生以下ニ限ッテ居ルノデアリマスガ、此點ハ先程申上ゲマスル通り、是ガ最モ火災ニ罹リ易イ、而シテ一度火災ニ罹リマスレバ、是等ハ全損ニナル、而シテ此保險ノ目的ハ、即チ造林ヲ再興セシメルト云フ點カラ、此幼齡林ヲ目的ト致シタ譯デアリマス、尙ホ此保險ハ、所謂簡易火災保險トナッテ居リマスルヤウニ、極ク取扱ヲ簡便ニ致ス無審査主義ヲ採ル譯デアリマシテ、是ガ爲ニハ保險ノ金額ヲ大體標準ヲ定メテ置ク必要ガアル譯デアリマス、是ハ人工造林デアリマスカラ、日本全國各地方ヲ大體ニ於テ標準ヲ定メ得ルノデアリマス、即チ保險金額ヲ一定致シマシテ、ソレニ依ッテ申込ヲ受付ケル、審査ヲシナイデ之ヲ行フヤウナ、斯

様ナ簡便ナ方法ヲ採ル譯デアリマシテ、此標準ハ人工植栽ノ苗木代、地拵ヘ代、其他植林費デアルトカ、或ハ金利、或ハ保險料、斯ウ云フモノヲ見マシタ最低費用額ヲ計上致シテ居ルノデアリマス

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第十四、營業收益稅法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——木暮武太夫君

第十四 營業收益稅法中改正法律案

(木暮武太夫君外二名提出) 第一讀會

營業收益稅法中改正法律案

營業收益稅法中左ノ通改正ス

第七條第六號中「又ハ演劇興業」ヲ削ル

(木暮武太夫君登壇)

○木暮武太夫君 只今上程サレマシタ營業收益稅法中改正法律案ノ提出ノ理由ヲ簡單ニ御説明申上ゲマス、大正十五年ニ舊營業稅法ガ廢止サレマシテ、今日行ハレテ居ル營業收益稅法ガ行ハレルヤウニナリマシテ、總テノ營利法人ハ、營業デアアル限りハ必ズ現今ノ營業收益稅法ニ掲ゲラレテ居リマスニ拘ラズ、唯一ツ演劇興行ダケガ、此原則カラ外レテ居ルト云フノガ今日ノ狀態デアリマス、元來大正十五年ニ舊營業稅法ガ廢止サレ、營業收益稅法ト云フモノガ設定サレマシタ所以ノモノハ、御承知ノ通り過去ニ於ケル營業稅ハ、物的外形標準ニ依ッテ課稅致シマス結果ト致シマシテ、ドウシテモ納稅者ノ實收入ト何等ノ聯絡ガナイ、所得ニ依ッテ稅金ヲ納メルコトガ出來ナイト云フ缺陷ガアルノデアリマシテ、是ガ故ニ所得收益ヲ標準トシテ課稅スル所ノ、所謂給付能力ニ應ズベキ所ノ營業收益稅ト云

ノヤウニ、未ダ保險思想ノ幼稚ナル國ニ於キマシテハ、之ヲ國營ニスルコトニ依ッテ、此目的ヲ達成スルコトガ出來ル、尙又市町村ノ既設ノ施設ヲ利用スルノデアリマスルカラ、此點ニ於テモ少カラズ便利ガアリマス、其他危險ノ生ジタ場合ニ、是ガ支拂ニ對シテハ、國デアリマスカラシテ、非常ニ堅固デアアル、若シ營利會社デアラナラバ、茲ニ破産デアルトカ、或ハ支拂金額ノ減額デアルトカ、或ハ相互會社ニ依レバ、保險料ノ追徴ナド、云フコトガアル譯デアリマスルケレドモ、左様ナ心配ガナイ譯デアリマス、而シテ長年月ニ互ル所ノ事業デアリマスルカラ、國家事業トシテ亦適當デアルト云フ點カラシテ、國營ト致ス所ノ趣旨デアリマス、而シテ保險ノ目的ハ二十年生以下ニ限ッテ居ルノデアリマスガ、此點ハ先程申上ゲマスル通り、是ガ最モ火災ニ罹リ易イ、而シテ一度火災ニ罹リマスレバ、是等ハ全損ニナル、而シテ此保險ノ目的ハ、即チ造林ヲ再興セシメルト云フ點カラ、此幼齡林ヲ目的ト致シタ譯デアリマス、尙ホ此保險ハ、所謂簡易火災保險トナッテ居リマスルヤウニ、極ク取扱ヲ簡便ニ致ス無審査主義ヲ採ル譯デアリマシテ、是ガ爲ニハ保險ノ金額ヲ大體標準ヲ定メテ置ク必要ガアル譯デアリマス、是ハ人工造林デアリマスカラ、日本全國各地方ヲ大體ニ於テ標準ヲ定メ得ルノデアリマス、即チ保險金額ヲ一定致シマシテ、ソレニ依ッテ申込ヲ受付ケル、審査ヲシナイデ之ヲ行フヤウナ、斯

様ナ簡便ナ方法ヲ採ル譯デアリマシテ、此標準ハ人工植栽ノ苗木代、地拵ヘ代、其他植林費デアルトカ、或ハ金利、或ハ保險料、斯ウ云フモノヲ見マシタ最低費用額ヲ計上致シテ居ルノデアリマス

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第十四、營業收益稅法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——木暮武太夫君

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第十四、營業收益稅法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——木暮武太夫君

フモノガ、大正十五年ニ出來タノデアリマス、又理窟ノ上カラ申シマシテモ、御承知ノ通り租税ハ、資本ニ税金ヲ課ケルノデナク、所得ニ税金ヲ課ケルノヲ、其本旨トシナケレバナラスノデアリマシテ、若シ誤テ所得ニ税金ヲ課ケルコトナシニ、資本ニ税金ヲ課ケルコトニ相成リマシタナラバ、一國ノ資本ヲ消耗スル結果トナテ、國民經濟ニ恐ルベキ將來ヲ誘致スルコトハ申ス迄モナイノデアリマス、此意味カラシテ、何處マデモ租税ノ理論ハ收益ニ應ズルツカ、或ハ所得ニ課税スルツ云フ、收益主義ヲ建前トスルト云フコトハ申ス迄モナイノデアリマス、是ガ故ニ最近ニ於キマシテハ、物的外形標準ト云フモノヲ以テ課税スル所ノ税金ハ、段々ト無クナテ來テ居ルノデアリマス、我國ノ租税體系ヲ見マシテモ、所得稅ヲ中心トシテ、資産重課ノ意味デ、土地ニ對シテハ地租ヲ取り、或ハ營業ニ對シテ營業收益稅、資本ニ對シテ資本利子稅ヲ取りマシテ、按配ヲ致シテ居ルヤウナ事實ヲ考ヘテ見マス、必ズ總テノ土地ニ付テ地租ヲ課シテ居ルト同様ニ、總テノ營業ニ付テハ、必ズ收益ニ依ル所ノ營業收益稅ト云フモノガ課ケラレナケレバナラナイト云フコトハ、原理上當然ナルコトデアルト信ズルノデアリマス、然ルニ現在ノ演劇興行ガ、只今カラ五十五年前ノ明治十一年頃ニ於ケル所ノ太政官布告ニ、地方ノ雜種稅トシテ載テ居、タト云フ理由ガ其儘ニ殘リマシテ、地方雜種稅トナテ居ル結果、

各地方々々デ物的外形標準デアル上ニ、區々タル取扱ヲ受ケテ居ルト云フヤウナコトハ、頗ル不公平デアルシ、不況時ニ重ク、好況時ニ輕イト云フ變態ガアル、今日實際給付能力ニモ應ジ、實際ノ納稅力ニ應ズル所ノ營業收益稅ヲ以テ致シマシテモ、此不況ノ時ニ於キマシテハ、中々納稅ガ困難デアルト云フ一般ノ非難ガアリマス時ニ於テ、古イ思想ノ下ニ物的標準ノ、所謂外形標準ヲ以テ基トシテ、舊營業稅法ニ依ル雜種稅ヲ、獨リ演劇興行ノミガ負擔スルコトハ、不公平デアリ、苛酷デアルト、私共ハ信ズルノデアリマス、近ク將來ニ於テ財政建直シノ爲メ、我國ニ於テモ稅制ノ改革ヲ行ハナケレバナラスト云フコトハ、恐クハ何人モ否定スルコトノ出來ナイ輿論デアルト信ズルノデアリマス、調査會ヲ作、テ稅制ノ改革ヲスルコトモ、固ヨリ必要デアリマスケレドモ、進ンデ一日一善ヲ爲ス主義ニ於テ、少シデモ惡イモノガアリマシタナラバ、直チニ取、テ之ヲ改メテ行クト云フコトガ、稅制改革ノ爲メ一步ヲ進ムル所以デアルト信ジテ、本案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御協贊アラシコトヲ偏ニ御願致シマス(拍手)

○上田孝吉君 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(植原悦二郎君) 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第十五、大正十五年法律第五十二號中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——中野勇治郎君

第十五 大正十五年法律第五十二號中改正法律案(土地區劃整理ニ伴フ清算金ニ關スル件)(安藤正純君外五名提出) 第一讀會

大正十五年法律第五十二號中改正法律案

大正十五年法律第五十二號中左ノ通改正ス

第三條第一項中「清算金ニ付利子ヲ附シ五年ヲ超エサル期間」ヲ「清算金ニ付低利ヲ附シ十五年ヲ超エサル期間」ニ改ム

〔中野勇治郎君登壇〕

○中野勇治郎君 本案提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、本案ハ御承知ノ通り屢、御手数ヲ煩シテ居ル案デアリマシテ、又屢、本院ヲ通過サセテ戴イタ案デアリマス、唯本案ノ如キ、區劃整理ニ伴フ清算金納付ノ狀態ハ、未ダ東京市及橫濱市ニ於キマシテモ、依然タル窮狀ニアルノデアリマスガ故ニ、ドウカ是非此納付期間ノ延長ヲシテ、緩和ヲシテ戴キタイト云フノガ、此法案ノ趣旨デゴザイマス、何卒前例ノ通り御贊成アラシコトヲ御願致シマシテ提案ノ理由ト致シマス(拍手)

○上田孝吉君 本案ハ安達謙藏君外一名提出、町村役場費臨時國庫補助法案外十件ノ委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(植原悦二郎君) 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第十六及第十七ハ、同種議案ナルニ依リ一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認メマス、日程第十六、速記士法案、日程第十七、速記士法案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、順次提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——金井正夫君

第十六 速記士法案(金井正夫君外二名提出) 第一讀會

第十七 速記士法案(中山福藏君外三名提出) 第一讀會

速記士法案

速記士法

第一條 速記士ハ速記法ヲ用ヒ法令ニ依ル文書ノ作成ヲ爲スコトヲ業トスルモノトス

第二條 速記士タラムトスル者ハ左ノ條件ヲ具フルコトヲ要ス

一 帝國臣民ニシテ民法上ノ能力ヲ有スル成年以上ノ男子タルコト

二 速記士試驗ニ合格シタルコト

速記士試験ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ速記士試験委員ノ銓衡ニ依リ第二條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス速記士タル資格ヲ有ス

一 貴族院又ハ衆議院ノ速記者養成所ヲ卒業シタル者ニシテ三年以上速記ニ關スル業務ニ從事シタル者
二 貴族院又ハ衆議院ノ速記技手以上ノ職ニ在リ又ハ在リタル者

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ速記士タル資格ヲ有セス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ二年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日より起算シ三年ヲ經過シタル者又ハ陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ一年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 前號ニ該當スル者ヲ除クノ外第十條ノ規定ニ依リシ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日より起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

三 破産者ニシテ復權セサル者

第五條 速記士タラムトスル者ハ速記士名簿ニ登錄ヲ受クヘシ

速記士ノ登錄ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

速記士ハ其ノ業務ニ關シ速記士ノ稱號ヲ用フヘシ

第六條 速記士ハ主務大臣ノ監督ニ屬ス第七條 速記士タル資格ヲ有セスシテ速記士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 速記士タル資格ヲ有スルモ其ノ登錄ヲ受ケスシテ速記士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス第九條 速記士本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ行為若ハ業務上不正ノ行為アリタルトキハ主務大臣ハ速記士懲戒委員會ノ議決ニ依リ之ヲ懲戒ス

速記士懲戒委員會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 速記士ノ懲戒處分ハ左ノ四種トス

一 譴責

二 千圓以下ノ過料

三 一年以内速記士ノ業務ノ停止

四 速記士ノ登錄ノ抹消

前項第二號ノ過料ヲ完納セサルトキハ主務大臣ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス

非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ執行ニ付之ヲ準用ス

第十一條 速記士又ハ速記士タリシ者故ナク其ノ業務上取扱ヒタル事項ニ付知

得シタル秘密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際引續キ一年以上速記ノ實務ニ從事シタル者ハ本法施行ノ日より六月以内ニ出願シタルトキニ限り第二條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス速記士試験委員ノ銓衡ヲ經テ速記士タル資格ヲ有ス

速記士法案

速記士法

第一條 速記士ハ速記法ヲ用ヒ法令ニ依リ文書ノ作成ヲ爲スコトヲ業トスルモノトス

第二條 速記士タラムトスル者ハ左ノ條件ヲ具フルコトヲ要ス

一 帝國臣民ニシテ民法上ノ能力ヲ有スル成年以上ノ男子タルコト

二 速記士試験ニ合格シタルコト

速記士試験ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ速記士試験委員ノ銓衡ニ依リ第二條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス速記士タル資格ヲ有ス

一 貴族院又ハ衆議院ノ速記者養成所ヲ卒業シタル者ニシテ三年以上速記ニ關スル業務ニ從事シタル者

二 貴族院又ハ衆議院ノ速記技手以上ノ職ニ在リ又ハ在リタル者

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ速記士タル資格ヲ有セス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ二年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日より起算シ三年ヲ經過シタル者又ハ陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ一年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 前號ニ該當スル者ヲ除クノ外第十條ノ規定ニ依リシ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日より起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

三 破産者ニシテ復權セサル者

第五條 速記士タラムトスル者ハ速記士名簿ニ登錄ヲ受クヘシ

速記士ノ登錄ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

速記士ハ其ノ業務ニ關シ速記士ノ稱號ヲ用フヘシ

第六條 速記士ハ主務大臣ノ監督ニ屬ス第七條 速記士タル資格ヲ有セスシテ速記士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 速記士タル資格ヲ有スルモ其ノ登錄ヲ受ケスシテ速記士ノ業務ヲ行ヒ

タル者ハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第九條 速記士本法若ハ本法ニ基キテ發

スル命令ニ違反シタルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ行爲若ハ業務上不正ノ行爲アリタルトキハ主務大臣ハ速記士懲戒委員會ノ議決ニ依リ之ヲ懲戒ス

速記士懲戒委員會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 速記士ノ懲戒處分ハ左ノ四種トス

一 譴責

二 千圓以下ノ過料

三 一年以內速記士ノ業務ノ停止

四 速記士ノ登錄ノ抹消

前項第二號ノ過料ヲ完納セザルトキハ主務大臣ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス

非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル執行ニ付之ヲ準用ス

第十一條 速記士又ハ速記士タリシ者故ナク其ノ業務上取扱ヒタル事項ニ付知得シタル秘密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際引續キ一年以上速記ノ實務ニ從事シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ六月

以內ニ出願シタルトキニ限リ第二條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス速記士試験委員ノ銓衡ヲ經テ速記士タル資格ヲ有ス

○金井正夫君 簡單デアリマスカラシテ議席カラ御許シヲ願ヒマス

○副議長(植原悦二郎君) 許シマス

○金井正夫君 只今上程セラレテ居リマス速記士法案ニ付キマシテ、極ク簡單ニ其提案理由ヲ説明致シタイト思フノデアリマス、

輒近速記ノ利用ハ日ニ月ニ其範圍ヲ擴大致シマシテ、今ヤ社會文化ノ一要素トシテ缺クベカラザル地位ニ在ルノデアリマス、就中帝國議會ヲ初メ道府縣會、又ハ市町村會等ハ勿論、各官公署ニ開カル、公ノ會議、公私ノ組合、銀行、會社ノ總會等ハ、概ネ

速記ニ依テ其議事ヲ錄取シテ居ルノデアリマス、更ニ裁判廷ニ於ケル各種ノ記錄ヨリ、進ンデハ私權ニ關係アル文書ノ作成ニモ、盛ニ利用セラレントスル趨向ニ在ルノデアリマス、而シテ是等ノ速記ハ、或ハ

公ノ秩序ニ關シ、或ハ貴重ナル言論ヲ永久ニ傳ヘ、或ハ財産權利等ニ重大ナル關係ヲ有スルモノデアリマシテ、其記錄ハ絕對ニ精確公正ヲ確保シナケレバナライノデアリマス

然ルニ現在是在方速記ニ從事致シテ居リマスル者ノ資格竝ニ責任等ニ關シマシテハ、何等公ニ之ヲ規律スルモノガナクシテ、單ニ速記者ト稱シマスレバ、玉石混架致サレマス爲ニ、動モスレバ速記ノ本質ヲ誤解セラレ、其眞價ヲ認識セラレザルノ憾ガアル

ノデアリマス、加フルニ今後文運ノ進化ニ伴ヒマシテ、速記ノ對象トナルベキ事項ハ、益々複雑多岐ヲ加ヘマシテ、之ニ從フ者ノ教養素質亦充實向上ヲ要スルモノ切ナルモノガアルニ拘ラズ、其地位ガ社會的ニ公認致サレテ居リマセヌ結果、斯道ニ志ス者モ亦前途ノ光明ヲ認ムルコトガ出來マセズシテ、其結果ハ延テ世ノ進歩ニ追隨シ能ハザルニ至ランコトヲ虞ル、ノデアリマス、此

ニ於テカ國家ハ如上公共ノ秩序其他國民ノ權利ニ多大ノ關係アル部門ニ從事スベキ者ノ資格竝ニ責任ヲ法定致シマシテ、其地位ヲ公認シテ、以テ重要記錄ノ精確公正ヲ期スルト共ニ、將來速記ニ志ス者ニ確乎タル目標ヲ與フルハ、現下ノ實狀ニ鑑ミ、將又我國文化ノ發達ノ爲ニ、最モ急務ナリト信ズルノデアリマス、仍テ本案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒慎重審議ノ上ニ御協賛アラシコトヲ御願スル次第デアリマス

(拍手)

○副議長(植原悦二郎君) 內藤正剛君

○內藤正剛君 簡單ニ提案理由ヲ自席カラ述ベルコトヲ御許シ願ヒマス

○副議長(植原悦二郎君) 許シマス

○內藤正剛君 本案ニ付キマシテハ、殆ド只今金井君ガ申サレマシタ議論デ盡キテ居ル譯デアリマス、私ハ唯一言簡單ニ提案理由ヲ述ベテ置キタイト存ズル次第デアリマス、輒近速記ノ利用ガ激シクナッテ居リマスルコトハ、各種議會ノ會議ハ勿論、公ノ集會、總テ速記ヲ用ヒルノデアリマス、是

ガ爲ニ文化竝ニ政治經濟等ニ關シマスル貴重ナル資料ガ永久ニ保存セラレテ居ッテ、其及ボス所ノ影響ノ重大デアルト云フコトハ隠レモノキ事實デアリマス、然ルニ今日マデ之ニ對シ特別ノ規定ガナイノデアリマシテ、記錄ノ絕對精確性ト公正ノ確保ヲ致シマスルコト、又從事スベキ者ノ教養及素質ノ充實向上ヲ圖ルト云フガ爲ニハ、何等カノ特別規定ガ要ルノデアリマス、右法案ノ制定ニ依リマシテ、事務ノ性質上公ノ秩序ト國民ノ權利ニ大ナル交渉ノアリマスル部門ニ從事セラルル人々ノ資格及責任ヲ定ムルコトニ依リマシテ、記錄ノ重要性ト、精確公正ヲ期シテ、安ンジテ是等ニ從事スル特殊ノ人々ニ確乎タル目標ヲ與ヘマシテ將來ニ資スルト云フコトハ、洵ニ結構ナ事柄デアリマシテ、金井君ノ説明ノ理由ト同様デアリマス、何卒本案ニ對シマシテ、各位ヨリ慎重ナル御協賛ヲ賜ハランコトヲ偏ニ御願致シマス(拍手)

○上田孝吉君 兩案ハ一括シテ安達謙藏君外一名提出、調停申立事件ノ手續費用救助ニ關スル法律案外四件ノ委員ニ併セ付託セラレントヲ望ミマス

○副議長(植原悦二郎君) 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十八ハ提出者ヨリ延期ノ申出ガアリマシタ

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十八ハ提出者ヨリ延期ノ申出ガアリマシタ

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十八ハ提出者ヨリ延期ノ申出ガアリマシタ

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十八ハ提出者ヨリ延期ノ申出ガアリマシタ

日程ヨリ之ヲ省キマス、日程第十九、古物商取締法中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長牧野賤男君

第十九 古物商取締法中改正法律案

(山本芳治君外二名提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一古物商取締法中改正法律案(山本芳治君外二名提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和八年三月二日

委員長 牧野 賤男

衆議院議長秋田清殿

(別紙)

古物商取締法中左ノ通改正ス

第十七條中「贓物」ヲ「盜品」ニ改ム

○中野勇治郎君 私家委員長代理デ……

○副議長(植原悦二郎君) 中野勇治郎君

(中野勇治郎君登壇)

○中野勇治郎君 本案ニ對シマスル委員會ノ經過竝ニ結果ヲ委員長ニ代テ御報告致シマス、本案ハ極メテ簡單デアリマシテ、古物商取締法第十七條ノ中ニ「贓物」トアルノヲ、「盜品」ト改正致シタイト云フ案デアリマス、是ハ同種ノ取締法デゴザイマスル質屋取締法ノ第十六條ニ於キマシテモ、矢張改正案ノ如ク盜品ト記載セラレテアリマシテ、贓物トハナイノデアリマス、此贓

物ト申シマスルト、盜品ノミナラズ、詐欺

横領ニモ關係致シマシタ品物マデ含ムノデ

アリマシテ、他ノ民法ノ規定上ノ關係ニ於

キマシテ、甚ダ適當デアリマセヌノデ、此

改正案ガ提出セラレタノデアリマス、政府

ニ於テハ之ニ贊成ヲ致サレマシタ、委員會

ニ於キマシテモ、此第二項ノ條項ハ、是ハ

矢張他ノ法規ノ關係上、穩當デナイト云フ

コトデ修正案ガ出マシテ、其修正案ハ提案者

ノ同意ヲ得マシテ通過致シタノデゴザイマ

ス、仍テ單ニ第一項ノ贓物トアリマスルノ

ヲ盜品ト修正致シマシテ、他ヲ削除致シテ、

委員會ハ滿場一致可決致シタノデゴザイマ

ス、此段御報告ヲ申上ゲマス(拍手)

○副議長(植原悦二郎君) 本案ノ第二讀會

ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認

メマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシ

タ

○上田孝吉君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開

キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通

リ可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(植原悦二郎君) 上田君ノ動議ニ

御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認

メマス、仍テ直チニ第二讀會ヲ開キ議案全

部ヲ議題ト致シマス

古物商取締法中改正法律案

第二讀會(確定議)

○副議長(植原悦二郎君) 別ニ御發議モア

シマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(植原悦二郎君) 第三讀會ヲ省略

シテ、委員長報告通り可決確定致シマシタ、

日程第二十及第二十一ハ、同一委員ニ付託

シタル議案ナルニ依リ、一括議題ト爲スニ

御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認

メマス、日程第二十、地方鐵道及軌道ニ對

スル地方稅免除ニ關スル法律案、日程第二

十一、地方鐵道及軌道ニ對スル地方稅免除

ニ關スル法律案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ

開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——金

光庸夫君

第二十 地方鐵道及軌道ニ對スル地方

稅免除ニ關スル法律案(本多貞次郎

君外一名提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十一 地方鐵道及軌道ニ對スル地

方稅免除ニ關スル法律案(鵜澤宇八

君外三名提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一地方鐵道及軌道ニ對スル地方稅免除ニ

關スル法律案(本多貞次郎君外一名提

出)

一地方鐵道及軌道ニ對スル地方稅免除ニ

關スル法律案(鵜澤宇八君外三名提出)

右ハ本院ニ於テ兩案ヲ併合シ表題ヲ「地

方鐵道及軌道ニ對スル地方稅免除ニ關ス

ル法律案」トシ別紙ノ通修正スヘキモノ

ト議決致候此段及報告候也

昭和八年三月三日

委員長 金光 庸夫

衆議院議長秋田清殿

(別紙)

地方鐵道法ニ依ル鐵道又ハ軌道法ニ依ル

軌道ノ線路及車輛ニ對シテハ地方稅ヲ賦

課スルコトヲ得ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前既ニ賦課シタル地方稅ニ付テ

ハ尙從前ノ例ニ依ル

(金光庸夫君登壇)

○金光庸夫君 只今上程ニナリマシタ兩案

ノ委員會ニ於ケル審議ノ顛末ヲ御報告申上

ゲマス、此兩案ハ鐵道軌道事業ノ本質ニ鑑

ミマシテ、國家ハ極力其保護助長ニ努メテ

居ルニモ拘ラズ、地方ニ於テ軌道稅又ハ車

輛稅ノ事業上、個々ノ物件ニマデ課稅スル

コトハ不適當デアアルカラ、之ヲ免除スベシ

ト云フコトニ致シマシテ、委員會ニ於テ政

府委員モ其不合理ヲ認メ、近ク地方稅整理

ニ當リマシテ、考慮スベシト言明サレタ次

第デアリマス、委員會ニ於キマシテハ、慎

重審議ノ結果、此兩案ハ其内容ガ全ク同一

ノ案デアリマスガ故ニ、之ヲ併合シテ一案

トナシ、表題ヲ「地方鐵道及軌道ニ對スル地方稅免除ニ關スル法律案」トシ、且ツ附則第一項ノ「本法ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」トアルヲ「本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ト修正シ、其他ノ部分ハ全部原案通り全會一致可決シタ次第デアリマス、此段御報告申上ゲマス（拍手）

○副議長（植原悦二郎君） 委員長報告ハ兩案ヲ併合シテ一案ト爲シ、修正議決シタルモノデアリマス、兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長（植原悦二郎君） 御異議ナシト認メマス、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○上田孝吉君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長（植原悦二郎君） 上田君ノ勸議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長（植原悦二郎君） 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

地方鐵道及軌道ニ對スル地方稅免除ニ關スル法律案 第二讀會（確定議）

地方鐵道及軌道ニ對スル地方稅免除ニ關スル法律案 第二讀會（確定議）

○副議長（植原悦二郎君） 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報

告通り可決確定致シマシタ（拍手）日程第二十二乃至第二十七ハ同一委員ニ付託シタル議案ナルニ依リ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長（植原悦二郎君） 御異議ナシト認メマス——日程第二十二、衛生組合法案、日程第二十三、衛生組合法案、日程第二十四、衛生組合法案、日程第二十五、傳染病豫防法中改正法律案、日程第二十六、傳染病豫防法中改正法律案、日程第二十七、傳染病豫防法中改正法律案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長寺田市正君

第二十二 衛生組合法案（野田文一郎君外四名提出）

君外四名提出

第一讀會ノ續（委員長報告）

第二十三 衛生組合法案（上田孝吉君外十四名提出）

君外十四名提出

第一讀會ノ續（委員長報告）

第二十四 衛生組合法案（田中祐四郎君外六名提出）

君外六名提出

第一讀會ノ續（委員長報告）

第二十五 傳染病豫防法中改正法律案（野田文一郎君外四名提出）

君外四名提出

第一讀會ノ續（委員長報告）

第二十六 傳染病豫防法中改正法律案（上田孝吉君外十四名提出）

君外十四名提出

第一讀會ノ續（委員長報告）

第二十七 傳染病豫防法中改正法律案

（田中祐四郎君外五名提出）

第一讀會ノ續（委員長報告）

報告書

一 衛生組合法案（野田文一郎君外四名提出）

一 衛生組合法案（上田孝吉君外十四名提出）

一 衛生組合法案（田中祐四郎君外六名提出）

右ハ本院ニ於テ三案ヲ併合シテ一案ト爲シ表題ヲ「衛生組合法案」トシ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和八年三月四日
委員長 寺田 市正
衆議院議長 秋田清殿

〔別紙〕

衛生組合法

第一條 衛生組合ハ公衆衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 衛生組合ハ法人トス

第三條 衛生組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

一 衛生思想ノ普及ニ關スル事業

二 傳染性疾患及寄生蟲病ノ豫防救治ニ關スル事業

三 清潔保持ニ關スル事業

四 其ノ他公衆衛生上必要ナル事業

第四條 衛生組合ノ區域ハ市内ニ於テ市長之ヲ定ム

第五條 衛生組合ハ其ノ區域内ノ世帯主ヲ以テ其ノ組合員トス

衛生組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ前項ニ掲グル者ノ外組合區域内ニ學校、病院、工場、倉庫、營業所又ハ事務所等ヲ設クル者ヲ組合員ト爲スコトヲ得但シ國、道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 衛生組合ヲ設立セントスルトキハ其ノ區域内ノ組合員タル資格ヲ有スル者七人以上發起人ト爲リ組合規約ヲ作成シ組合員タル資格ヲ有スル者二分ノ一以上ノ同意ヲ得テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第七條 地方長官必要アリト認ムルトキハ市長ニ對シ區域ヲ指定シ衛生組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ衛生組合ノ設立ヲ命ゼラレタル市長ハ組合規約ヲ作成シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第八條 衛生組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ總會ヲ開キ組合ニ關スル事件ヲ議決ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ代會ヲ以テ總會ニ代フルコトヲ得

總會ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 衛生組合ニ組合長及副組合長一人又ハ二人ヲ置ク
組合長及副組合長ハ組合員中ヨリ之ヲ

選舉ス

前項ノ選舉ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

組合長及副組合長ノ外組合規約ノ定ムル所ニ依リ衛生組合ニ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第十條 組合長ハ組合ヲ代表シ組合一切ノ事務ヲ擔任ス

副組合長ハ組合長ヲ輔佐シ組合長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

副組合長二人アルトキハ豫メ組合長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第十一條 衛生組合ノ經費ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合員之ヲ負擔ス

第十二條 組合規約ヲ變更セントスルトキハ市長ヲ經テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第十三條 地方長官ハ衛生組合ニ對シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得市長ハ衛生組合ニ對シ事務ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ徴シ、實地ニ就キ事務ヲ視察シ若ハ出納ヲ検査シ又ハ事業ニ關シ必要ナル事項ヲ指示スルコトヲ得

第十四條 地方長官ハ總會ノ議決若ハ選舉又ハ役員ノ行爲ガ法令若ハ組合規約ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ議決若ハ選舉ヲ取消シ、役員ヲ解任シ、組合ノ事業ヲ停止シ又ハ組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 衛生組合ノ解散、分合及區域

變更ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

傳染病豫防法ニ依リ設立シタル市内ノ衛生組合ニシテ本法施行ノ際地方長官ノ指定シタルモノハ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス

報告書

一傳染病豫防法中改正法律案(野田文一郎君外四名提出)

一傳染病豫防法中改正法律案(上田孝吉君外十四名提出)

一傳染病豫防法中改正法律案(田中祐四郎君外五名提出)

右ハ本院ニ於テ三案ヲ併合シテ一案ト爲シ表題ヲ「傳染病豫防法中改正法律案」トシ別紙ノ通り修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和八年三月四日

委員長 寺田 市正

衆議院議長秋田清殿

(別紙)

傳染病豫防法中左ノ通改正ス

第二十三條 地方長官ハ傳染病ノ豫防救治ノ爲町村内ニ衛生組合ヲ設ケシムルコトヲ得

地方長官ハ衛生組合法ニ依ル衛生組合及前項ノ衛生組合ニ對シ清潔方法、

消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防救治ニ關シ必要ナル事項ヲ指示シテ之ヲ履行セシムルコトヲ得

市町村ハ衛生組合法ニ依ル衛生組合及第一項ノ衛生組合ニ於テ傳染病ノ豫防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第二十四條中「第二十三條第二項」ヲ「第二十三條第三項」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(寺田市正君登壇)

○寺田市正君 只今上程サレマシタル衛生組合法案竝ニ傳染病豫防法中改正法律案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、衛生組合法案モ亦傳染病豫防法中改正法律案モ、共ニ政友、民政、國同三派ヨリ各提案サレテ居リマスガ、其内容ハ全ク同一デゴザイマス、都市ニ於ケル公衆衛生ノ普及及發達ヲ圖ルト云フ趣旨デアリマシテ、即チ法人トシテ衛生組合ヲ組織ショウト云フノデアリマス、其組合員トシテハ世帯主ヲ以テ組合員トスルト云フノガ眼目デゴザイマス、斯ウ云フ衛生組合法ヲ提案サレマシタニ付キマシテ、今日マデ我國ニハ衛生組合法ト云フモノガナカッタデアリマス、ソコデ去ル五十九議會ニ於テ、時ノ民政黨内閣ハ、政府ノ提案トシテ之ヲ帝國議會ニ提出致シマシタノデアリマシタガ、貴族院ニ於テ審議未了ニナツテ居ルノデアリマス、貴族院ニ於テ問題トナリマシタ點ハ、衛生組

合法ハ其會費ヲ強制徴收スルト云フ一箇條ガアツタノデ、其點ニ非難ガアツタ爲ニ、其儘ニ審議未了ニナツテ居ッタト云フコトデアリマス、ソコデ今回各派ノ提案サレマシタノハ、貴族院ニ於テ非難ノアリマシタ點、即チ會費ノ強制徴收ト云フ點ヲ省キマシテ、サウ云フ條項ヲ除キマシテ、サウシテ原案トシテ提案ニナツテ居ルノデアリマス、ソコデ委員會ニ於キマシテ政府ノ意圖ヲ質シマシタ所、最初出席シマシタ衛生局長ノ大島政府委員ハ、本案ハ都市即チ公共團體ト衛生組合ト云フ公法人トノ關係ヲ如何ニ置クカト云フ點、又都市ニ組合ヲ設ケシムルニ當リマシテ、單ニ衛生事務ダケノ組合ニスルト、又其他ノ事務ヲモ組合組織ニ依ツテ處理セシムル方ガ便宜デアアルカト云フヤウナ點、又此衛生組合ヲ單ニ都市ノミニ設ケシメテ、町村ニ之ヲ組織セシメナイト云フヤウナ點、及又其組合ヲ維持スル上ニ於テノ會費ノ點、即チ自由徴收ニ致シタ點等ニ付テ多少疑義ヲ有ツテ居リマスカラ、今俄ニ此衛生組合法案ニ贊成スル譯ニハ行カナイト云フ意見ヲ表明セラレタノデアリマス、然ルニ其次ニ開會致シマシタ委員會ニハ、内務政務次官齋藤政府委員ガ御出席ニナリマシテ、政府ノ意圖トシテ本案ニ對スル態度ヲ申サレタノニ、本案ハ嘗テ吾等ガ内閣ニ居ル時代ニ、即チ内務省ノ關係ニ在ル時ニ、内務省原案トシテ出シタモノデアアル、然ルニ貴族院ニ於テ審議未了ニナツタ、其點ヲ省イテ茲ニ提案サレタノデアリマスカラ、

此案ニ強キ意味ニテ反對モ出來マセヌガ、

ト言フテ又積極的ニ此法案其儘ヲ丸呑ミニシ

テ賛成モ一寸致シ兼ネルヤウナ立場ニナッ

テ居ルノデアリマスカラシテ、其事ハ能ク

御含ミヲ願ヒタイノデアアル、ソレ故ニ若シ

本案ガ衆議院ヲ通過シ、又々貴族院ニ於テ

モ可決サレルト云フコトニナレバ、政府ハ

當然ノ職責トシテ是ガ御裁可ヲ仰イデ、法

律トシテ實施スル任ニ當ル、ソレ故ニ諸君

ハドウカ衆議院ノ權能ヲ以テ然ルベク御決

定下サツタラ宜シカラウ、斯ウ云フ政府ノ

答辯デゴザイマシタカラ、委員會ニ於キマ

シテ慎重審議致シマシタ結果、三派三案ゴ

ザイマシタガ、上田孝吉君外十四名提出ノ

案ヲ基本トシマシテ、此案ニ併合修正致シ

マシテ、可決致シマシタヤウナ次第デゴザ

イマスカラ、何卒諸君モ御賛成ヲ希望致シ

マス

又次ノ傳染病豫防法中改正法律案ハ、衛

生組合法制定ノ結果、地方長官ヲシテ傳染

病豫防ノ爲ニ町村ニ衛生組合ヲ組織セシム

ルコトヲ得ルト云フノガ眼目デゴザイマス、

即チ都市ニ對シテ衛生組合ヲ設ケシムルト

同様ニ、傳染病豫防ニ對シテハ町村ニ於テモ

地方長官ガ衛生組合ヲ組織セシメヨウト云

フノガ、其趣旨ニナッテ居リマシテ、洵ニ至

當ナリト云フノデアリマシテ、委員會ハ是

亦上田孝吉君外十四名提出ノ案ヲ基本ト致

シマシテ、同案ニ併合修正可決致シタ次第

デゴザイマス、此段御報告申上ゲマス(拍

手)

○副議長(植原悦二郎君) 委員長報告ハ衛

生組合法案ノ三案、傳染病豫防法中改正法

律案ノ三案ヲ、ソレレ併合シテ各一案ト

爲シ、修正議決シタモノデアリマス、六案

ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認

メマス、六案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシ

タ

○上田孝吉君 直チニ六案ノ第二讀會ヲ開

キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長ノ報告通

リ可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(植原悦二郎君) 上田君ノ動議ニ

御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認

メマス、直チニ六案ノ第二讀會ヲ開キ、議

案全部ヲ議題ト致シマス

衛生組合法案 第二讀會(確定議)

衛生組合法案 第二讀會(確定議)

衛生組合法案 第二讀會(確定議)

傳染病豫防法中改正法律案

第二讀會(確定議)

傳染病豫防法中改正法律案

第二讀會(確定議)

傳染病豫防法中改正法律案

第二讀會(確定議)

○副議長(植原悦二郎君) 別ニ御發議モア

リマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報

告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○上田孝吉君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ

提出致シマス、即チ此際恩給法中改正法律

案ヲ議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其

審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長(植原悦二郎君) 上田君ノ動議ニ

御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(植原悦二郎君) 御異議ナシト認

メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、恩給

法中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマ

ス、委員長ノ報告ヲ求メマス——津崎尙武

君

恩給法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 恩給法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和八年三月九日

委員長 津崎 尙武

衆議院議長秋田清殿

附帶決議

恩給制度ニ關シテハ尙根本的ニ考慮ヲ要

スルモノアリ而シテ本改正案ハ社會政策

的見地ヨリスルモ不備ノ點尠シトセズ

政府ハ宜シク適當ナル對策ヲ講ズベシ

希望條項

一、戰公傷病死者及傷病軍人ノ遺族扶助

料中下級者ニ對シテハ其ノ最少限度ノ

生活ヲ保障スルニ足ルヘキ増額ヲ必要

トス

二、一時賜金傷病軍人ニ對スル傷病年金

制度ノ制定ハ適當ト認ムルモ尙増加恩

給者トノ均衡ニ付テハ考慮ヲ必要トス

増加恩給額ハ症項差額過少ニシテ階級

差額過大ナリ考慮ヲ要ス

三、大正十二年十月以前ニ死亡シタル傷

病者ノ寡婦ニシテ兵籍簿ニ登錄ナカリ

シ者ニ對シテハ速カニ調査ヲ了シ扶助

ノ方法ヲ講セラレタシ

四、北海道屯田兵恩給問題ニ付テハ同兵

役義務ノ特殊性ニ鑑ミ同情スヘキモノ

アリト認メタル兵役義務者及戦兵待遇

審議會答申ノ通速カニ相當ノ一時金ヲ支給シテ最後ノ解決ヲ爲スヘシ

五、政府ハ恩給金融ニ關シ速カニ適當ナル方法ヲ講セラレタシ

六、政府ハ常ニ恩給金交付ノ狀況ヲ嚴密ニ調査シ苟モ不當交付ナカラシムルコトニ努ムヘシ

〔津崎尙武君登壇〕

〔副議長退席、議長著席〕

○津崎尙武君 只今緊急上程セラレマシタ恩給法中改正法律案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、恩給法ノ改正ハ、逐年累増スル趨勢ニアル所ノ恩給總額ヲ減少シタイト云フコトガ、本改正案ノ主要ナル理由デアリマス、尙ホ受給者中ニ於キマシテ、給與ノ著シク薄キ者、及公務傷病者其他ノ者ニ付キマシテ、適當ニ恩給ノ整備ヲシタイト云フコトガ、其要點デアッタノデゴザイマス、其改正ノ要點ニ付キマシテハ、既ニ本會議ニ於テ述べラレテ居リマスルシ、尙ホ委員會ニ於ケル質疑應答ニ付キマシテハ、全部速記録ニ讓リタイト思ヒマスルケレドモ、其問題ガ極メテ廣範圍ニ互テ、重要ナル問題デアリマスカラ、極メテ簡單ニ二三ノ經過ニ付テノ要項ヲ申上ゲタイト思フノデアリマス

改正ノ要點ハ種々アリマス中ニ、恩給年限ノ延長ヲ致シタト云フコト、即チ十五年ノ文官ヲ十七年ニスル、十年ノ武官ヲ十二年ニスル等、大體ニ於テ二年間ノ延長ヲ致シテ居リマス、第二ニ、基礎俸給ヲ變更致シテ居ルコト、是ハ恩給ノ基礎ガ、現行法デハ罷メル時ノ最後ノ俸給ヲ基礎トシテアルノデアリマスガ、改正案ニ於キマシテハ退職一年前ノ本俸ヲ基礎トスルト云フコトニ改メタノデゴザイマス、尙ホ一時恩給、一時扶助料ノ最低年限ヲ設定致シマシタ、是ハ其在職ヲ三年トスルト云フコトニ決メタノデアリマス、次ニ受給者ノ年齢ニ依ル停止、ソレカラ多額所得者ノ一部停止デアリマス、是ハ恩給額ガ千圓以上デアッテ、其他ノ所得ガ五千圓以上ノ者、即チ合計六千圓以上ノ所得ヲ有スル者ニ付キマシテハ、六千圓ヲ超過スル額ノ二割ヲ控除シヨウト云フノデアリマス、此事ニ付キマシテハ、委員會ニ於テモ色々論議ガアッタノデゴザイマスガ、要スルニ恩給ヲ取ッテ居ッテ、尙ホ健康デ、外ノ人ニ働イテ居ッテ、恩給以上ノ多額ヲ取ッテ居ル事ガ、尙ホ今日恩給ヲ取ッテ居ル事情ニアルカラ、斯ウ云フ者ノ控除ハ成ベク多クシタラドウカト云フヤウナ意見モ多クッタノデゴザイマスガ、原案ハ其超

過額ノ二割、斯ウ云フコトニナッテ居ルノデゴザイマス、次ニ此改正ノ目的ニ副フ爲ニ、個人納付金ノ新設及増加デアリマス、即チ軍人ニ對シマシテハ、從來國庫納付金ト云フモノガナカッタノヲ、今回ノ改正案デ百分ノ一ヲ納付スルト云フコトニ改メラレタノデゴザイマス、普通文官ニ付キマシテハ、從來百分ノ一ノ納金デアッタノヲ、百分ノ二ヲ納付スルト云フコトニ改メラレテ居リマス、斯ウ云フ事情ニ依リマシテ、恩給増額ノ累加ヲ防イデ、サウシテ政府ノ見ル所ヲ以テシマスレバ、四五年ノ後ニハ増加ガ止ムコトデアラウ、特別ノ事情ノナイ限り増加ハ止ムデアラウ、十年後ニナリマスレバ、減少シテ行ク豫定デアルト稱シテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ目的ニ依ル改正ニ致シマシテ、サウシテ此場合ニ創設致シマシタコトハ、低位ノ傷病恩給ノ創定デアリマス、即チ傷病年金制ヲ設ケタコトデゴザイマス、是ハ現行法ノ傷病賜金ヲ給セラレル程度ノモノ、中、第一項症乃至第四項症ニ當リ、且ツ永續性ヲ有スルト認メラレタル者ニ對シマシテ、傷病年金ノ制度ヲ設ケテ支給シタイト云フノデアリマシテ、此爲ニ依ル増加ガ約百八十六萬圓ノ豫定デアルト云フコトデゴザイマス、次ニ特殊扶助料ヲ制定致

シテ居リマス、即チ公務ノ爲メ死亡シタル者ガ増加恩給ヲ受クル者ノ遺族扶助料ニ付キマシテ、死亡後五年間、扶助料ノ三割ヲ加給スルト云フコトデアリマス、此事ニ依リマシテ大體二十六萬圓ノ増加ヲスルト云フ見込ダサウデゴザイマス

本案ニ付キマシテハ數日ニ互ッテ、委員會ニ於キマシテ熱心ナル質疑應答ガゴザイマシタガ、其中最モ論議セラレマシタ點ハ、下級者ニモウ少シ厚クシテ、假令上級ヲ減ラシテモ厚クスル必要ガアルノデハナイカ、就中戰死者ノ遺族扶助料ニ付キマシテハ、特ニ今日時局重大ナ秋ニ方リマシテハ、之ヲ相當ニ増額スル必要ガアルノデハナイカト云フコトガ、最モ熱心ニ論議セラレタノデゴザイマス、一時賜金、傷病軍人ノ症狀ノ主ナル者ニ對スル待遇ニ付キマシテモ、委員會間ニ於キマシテ政府ト極メテ重要ナル質疑應答ガ繰返サレマシタ、尙ホ増加恩給ニ付キマシテモ、症項ノ症狀ノ、重イモノト然ラザルモノトノ差、及階級ノ差ニ付テノ論議モ相當ニアッタノデゴザイマス、要スルニ少額受給者ヲ厚クシテ、上級者ヲ薄クシテハドウカト云フ希望ガ、委員全部ノ間ニアッタコトヲ御諒承ヲ願ヒタイト思フノデゴザイマス、ソレカラ大正十二年十月、

即チ現行恩給法ノ施行セラレマスル前ニ死亡致シマシタ傷痍者ノ寡婦、其中デ兵籍簿ニ登録ナカリシ者ト云フモノニ付キマシテハ、是ハ委員間ニ於キマシテモ、斯ウ云フ寡婦ニ對シテハ扶助料ヲ支給スベキデアルト云フ主張ガアリマシタガ、政府ニ於キマシテハ、目下ソレヲ調査シテ居ルト云フ同情アル御答ガアッタノデゴザイマス

テ、委員會毎ニ本問題ヲ色々質疑シ論議セラレテ居ッタノデゴザイマスルガ、大藏當局ト致シマシテハ、委員會ノ席上ニ於テ、此要求ニ對スル言明ヲスルニ至ラナカッタコトヲ遺憾ト致シマスケレドモ、既ニ委員會ニ於キマシテモ、極メテ多數ノ時間ヲ之ニ費シテ論議セラレタコトヲ、御報告申上ゲルノデゴザイマス

之ニ付キマシテハ、政府モ其努力ヲ致シタイト云フコトヲ答ヘテ居リマス、次ニ恩給辭退ノ件デゴザイマスガ、此事ガ委員會ニ於テ相當ニ論議サレマシタ、然ルニ此事ニ付キマシテハ、世間ニ誤解サレテ傳テ居ルノデハナイカト思フノデゴザイマスカラ、此場合ニ一言致シテ置クノデゴザイマス、ソレハ委員會ニ於テ論議セラレマシタコトハ、受給者ニシテ恩給ヲ受ケザルモ裕ニ生活シテ行ケル人ガアルノデアアル、殊ニ上級者ニ對シテサウ云フ者ガアルト致シマスレバ、法規ニ規定シテ恩給辭退ノ途ヲ開イテハドウカ、斯ウ云フコトデアリマス、其目的トスル所ハ、サウ云フ餘裕ガアルナラバ、其餘裕ヲ以テ下級者ノ恩給乃至扶助料ニ振向ケタイ、斯ウ云フ精神ノ下ニ論議セラレテ居ッタト云フコトヲ御諒解ヲ願ヒタイノデゴザイマス、併ナガラ政府ト致シマシテハ、現行法ニ於テハ辭退シヨウト思ヘバ出來ルノデアアル、之ヲ法文ニ現ハスコトハ、扶助料其他ノ事ニ付テ相當弊害ガアルカラ、俄ニ賛成ハ出來ナイト云フコトデアッタノデゴザイマス

決議並ニ希望條項ヲ提出セラレ、其前ニ原案ハ之ヲ認メテ、茲ニ申上ゲマシヤウナ附帶決議及希望條項ヲ附シマシテ、本案ヲ通過サセタイト云フ意見デアッタノデゴザイマス、之ヲ讀上ゲマス

附帶決議

次ニ北海道屯田兵ノ豫備役期間ヲ恩給期間ニ通算致シタイト云フ問題ハ、連年本議會ニ於テ議員提出案其他ノ形ニ於キマシテ現ハレテ居ルノデアリマスガ、是ガ實現ヲ見ズシテ今日ニ及ンデ居ルノデゴザイマス、然ルニ本件ニ付キマシテハ、色々ノ經過ヲ經マシテ、恩給期間ニ通算スルコトハ、政府トシテハ同意シ難イト申シマスケレドモ、之ニ對シテ一時賜金ヲ支給スル、一時賜金ヲ支給シテ以テ屯田兵問題ノ解決ヲシタイト云フコトヲ、陸軍當局ニ於テモ連年之ヲ希望セラレテ、サウシテ大藏省ニ對シテ要求セラレテ居ッタ事實ガアルヤウデゴザイマス、然ルニ大藏省ノ都合ニ依リマシテ、此問題ハ常ニ採擇セラレズシテ今日ニ及ンデ居ルノデゴザイマスガ、本件ニ付キマシテハ、北海道選出ノ議員諸君ハ、特ニ林君ハ最モ熱心ナル主張ヲ致サレマシ

次ニ恩給ノ金融ニ關シマシテハ、是ハ受給者ノ事情ニ顧ミマシテ、何トカ金融ノ方法ヲ付ケタラ宜イデハナイカ、恩給ヲ擔保ニスルコトハ出來ナイ規定ニナッテ居ッデモ、現ニ高利貸ノ目的物ニナッテ居ルヤウナ事情ガアルニ顧ミマシテ、何トカ此金融ニ關シテ低利資金ヲ融通スルカ、何等カノ方法ヲ立デルコトニ依ッテ、政府ハ金融ノ途ヲ講ジテ貰ヒタイト云フ、熱心ナル要求ガアッタノデゴザイマス、政府ハ本件ニ付テハ相當考慮シテ居ルト云フ御答ヲ得タノデゴザイマス、次ニ恩給増加ノ原因デアリマス所ノ官吏ノ任免ニ關シマシテハ、政府トシテ特別ナ注意ヲ戴キタイ、即チ唯徒ニ官吏ヲ任免スルコトニ付キマシテ、其當ヲ得ナイ爲ニ、行政上ノ惡弊ガアル爲ニ、恩給ガ増加スルト云フ傾向ガアルカラシテ、此惡弊ヲ矯メテ貰ヒタイト云フ、熱心ナル委員ノ希望ガアリマシタ、

質疑應答ニ付キマシテノ大體ハ前申上ゲタル通りデゴザイマスガ、質問ヲ打切りマシタ後討論ニ入りマシテ、匹田委員ヨリ附帶

恩給制度ニ關シテハ尙根本的ニ考慮ヲ要スルモノアリ而シテ本改正案ハ社會政策的見地ヨリスルモ不備ノ點尠シトセズ政府ハ宜シク適當ナル對策ヲ講ズベシト云フコトデアリマス、次ニ希望條項ト致シマシテ

一、戰公傷病死者及傷痍軍人ノ遺族扶助料中下級者ニ對シテハ其ノ最少限度ノ生活ヲ保障スルニ足ルヘキ増額ヲ必要トス

二、一時賜金傷痍軍人ニ對スル傷病年金制度ノ制定ハ適當ト認ムルモ尙増加恩給者トノ均衡ニ付テハ考慮ヲ必要トス

三、大正十二年十月以前ニ死亡シタル傷痍者ノ寡婦ニシテ兵籍簿ニ登録ナカリシ者ニ對シテハ速カニ調査ヲ了シ扶助ノ方法ヲ講セラレタシ

四、北海道屯田兵恩給問題ニ付テハ同兵役義務ノ特殊性ニ鑑ミ同情スヘキモノアリ

ト認メタル兵役義務者及廢兵待遇審議
會答申ノ通速カニ相當ノ一時金ヲ支給
シテ最後ノ解決ヲ爲スヘシ

五、政府ハ恩給金融ニ關シ速カニ適當ナ
ル方法ヲ講セラレタシ

六、政府ハ常ニ恩給金交付ノ狀況ヲ嚴密
ニ調査シ苟モ不當交付ナカラシムルコ
トニ努ムヘシ

斯様ナ希望條項デゴザイマス、此案ニ付キ
マシテハ、民政黨ノ山折儀重君カラ本案ニ
賛成致シマスト共ニ、此事ニ希望條項トシ
テ舉ゲラレタル條項ニ付キマシテ、戰病死
者ノ遺族並ニ傷痍軍人ノ公傷ノ甚シイモノ
等ニ付キマシテハ、出來ルナラバ本法ヲ修
正シテモ之ヲ支給シタイ考ガアルケレドモ、
今日此會議ニ於キマシテ修正スルコトハ出
來ヌカラ、政府ハ何處迄モ此附帶決議並ニ
希望條項ノ趣旨ノアル所ヲ諒トセラレテ、
適當ニ考慮セラレンコトヲ希望スルト云フ
意味デ、西田君ノ動議ニ對シテ賛成ガアッ
タノデゴザイマス、次ニ國民同盟ノ後藤亮
一君ヨリモ、山折君ト同様ナ意見ヲ以テ此
案ニ賛成セラレタノデゴザイマス、採決ニ入
リマシテ、本案附帶決議、希望條項共悉ク
全員一致ヲ以テ賛成セラレタノデゴザイマ
ス、此段御報告申上ゲマス(拍手)

○議長(秋田清君) 通告順ニ從ヒ討論ヲ許
シマス、宮澤裕君

(宮澤裕君登壇)

○宮澤裕君 只今委員長ヨリ御報告ニナリ
マシタ恩給法ノ改正案ニ關シテ、賛成ノ意
見ヲ述ベタイト存ズルモノデアリマス、御
承知ノ通り恩給法ノ改正ハ、當局者ヨリモ
寧ロ國民多年ノ要望デアッタノデアリマス、
私共今回齋藤内閣ノ成立ニ依リテ、政黨内閣
ノ或ハ改正シ得ザル點マデモ、思切リテ立
案改正ガ出來ルデアラウト云フコトヲ、窃
ニ期待シテ居ッタノデアリマス、先月ノ二
十二日カ御提案ニナッタ時ニ、提案ノ趣旨ヲ
聽キマス、之ヲ財政的見地及社會政策的
ノ見地、此兩方面カラ改正ニ著手致シテ、
茲ニ漸ク提案スルニ至ッタノデアアル、何卒
御協賛ヲト云フ御挨拶デアッタノデアリマ
スガ、爾來私共委員ハ極メテ熱心ニ、寧ロ
此案ニ對シテハ敬虔ノ念ヲ以テ、慎重ニ審
議討論ヲ重ネタノデアリマス、其結果ドウ
ナリマシタカト云フコトハ、只今津崎委員
長ヨリ御報告ニナッテ、巨細既ニ御諒承ノ
コト、思ヒマスカラ、簡單ニ私ハ討論ヲ致
スコトニ致シタイと思フノデアリマスルガ、
實ハ政府ガ茲ニ説明サレマシタ財政的ノ立
場カラ言ヒマシテモ、之ヲ下級者ニ厚クス

ルト云フ社會政策的立場カラ見マシテモ、
極メテ微温的デアアル、吾々ノ期待ヲ裏切
コト甚シカッタノデアリマス、財政的ノ見
地カラ之ヲ申シマスルナラバ、恩給年限ヲ
僅ニ二箇年、文武官ヲ通ジテ之ヲ増シタ、
尤モ警察監獄官吏デアリマスルカ、或ハ
下級軍人ノヤウナ者ニ對シマシテハ、下級
軍人ガ十一年ガ十二年ニナリ、警察監獄官
吏ニ對シマシテハ、十年ガ十一年ニナッ
ト云フヤウニ、僅ニ一年ノ延長ノモノモ中
ニアリマスガ、大體二年ヲ増サレテ居ル、
斯ウ云フヤウニ恩給ノ年限ヲ多少増シタ
云フコトノ上ニ、六千圓以上ノ全額收入ノ
アリマスル者ハ、超過額ノ僅ニ二割ヲ國庫
ニ納付スルト云フコトヲヤッテ居ル、更ニ其
上ニ恩給基金ト致シマシテ國庫ニ納付致シ
マスル額ヲ、文官ハ百分ノ一デアリマシタ
モノヲ、百分ノ二ニ致シマスルカ、或ハ
武官ノ未ダ會テ納付致サナカッタ者ニ對シ
テ、新ニ納付規定ヲ設ケルトカ云フヤウニ、
財源ノ捻出ニ苦勞シタ跡ハ多少見受ケルノ
デアリマスガ、然ラバ此財源ガドレダケ捻出
出來ルカト云フト、僅ニ二百萬圓足ラズト云
フヤウニ聞イテ居ルノデアリマス、如上ノ次
第カラ申シマスルト、財政的ニモ極メテ是ガ
貧弱ナル改正デアルト云フコトハ明瞭ナノ

デアリマス、而シテ社會政策的ニ、下ニ厚
ク改正スルト云フコトニ付テ、之ヲ檢討致
シマスルト、只今委員長ノ報告通り、戰公
傷病死者ノ遺族ニ對スル特殊恩給、是モ僅
カ三割ヲ増シテ、五箇年デ之ヲ打切ルト云
フコトニナッテ、戰公傷病者ノ遺族ニ對スル
所謂第一款症カラ十款症マデアリマスルモ
ノ、中、一款カラ四款ノモノニ對シテノミ、
所謂傷病年金ト云フモノヲ拵ヘテ、之ニ給
與スルト云フノデアリマスガ、是モ僅ニ總
額ガ百七十八萬圓、其他ニ於テハ何等ノ改
正ノ跡ヲ認メルコトガ出來ナイノデアリマ
ス、是レ財政的ニ申シマシテモ、社會政策
的見地カラ申シマシテモ、國民ノ期待ヲ裏
切ルコト甚ダデアルト云フコトハ、簡單
ニ討論致シマシテモ如上ノ次第デアアルノデ
アリマス

吾々委員ト致シマシテハ、國家ニ忠勤ヲ
勵ミ、國難ニ殉ジ、所謂身命ヲ賭シテ國家
ニ盡シタ當事者及其遺族ニ對シテハ、當事
者及遺族ガ自ラ求メズトモ、進ンデ此犠牲
者ニ對シテハ、國家ガ相當ニ酬ヒヲシテ然
ルベキモノダト思フ、無論賢澤ハ御本人、
遺族モ好ム所デハアリマセヌガ、吾々ガ此
犠牲者ニ對シテ、同胞國民トシテ相當ノ酬
ヒヲシ、孤獨ニ泣キ、輾轉不遇ニ苦ンデ居

リマス遺族ニ對シテハ、相當限度ノ生活ノ保障ヲシマス云フコトハ、是ハ國民當然ノ義務デアルト私ハ信ズルノデアリマス、是ガ吾々ノ期待デアリ、國民多年ノ要望デアッタニモ拘ラズ、殆ド此結果ガ此法律ノ改正ニ現レテナイト云フコトニ付テハ、洵ニ遺憾ナノデアリマス、就キマシテハ吾々委員カラ色々希望モ出シ、修正ニ付テモ色々協議ヲ遂ゲタノデアリマスガ、御承知ノ通り極メテ浩瀚、煩雜ナル恩給法デアリマス、迎モ素人ト申シマスカ、吾々委員ガ一週間ヤ十日位研究シタノデハ、簡單ニ之ニ修正ノ筆ヲ加ヘルコトハ實ハ困難デアリ、時日モ迫ッテ居リマスガ爲ニ、已ムヲ得ズ吾々ハ政府ニ對シテ所謂附帶決議トシ、希望條項ト致シマシテ、速ニ國民ノ意思ノ存スル所ヲ十分考慮研究シテ、此改正案ヲ速ニ再ビ議會ニ提案シテ、國民ノ協賛ヲ求メルノ舉ニ出ラレルヤウニ望ムト云フ措置ヲ採ル外ハナカッタノデアリマス、實ハ委員長モ報告ニナリマシタ通りニ、私共ト致シマシテハ、斯ノ如ク註文ノ各箇所ニ付テ修正ヲシタカッタノデアリマスガ、此案全體カラ見マシテモ、例ヘバ只今ノ恩給ト云フモノハ、現在ニ於テモ恩給法ノ十一條デハ、之ヲ擔保ニ利用スルコトナドハ禁止サレテ居ルノデ

アリマス、然ルニ實際ハ是ガ高利貸、金融業者ノ喰物ニナッテ居ルト云フコトヲ、仄カニ聞イテ居ルバカリデナク、恩給局長ノ言明ニ依ッテモ、正式ニ受取手續ヲシテ、交付シテ居リマス恩給ノ擔保ニナッテ居ルモノハ、總額ノ約二割位アルデアラウ、其他現ハレナイモノハ幾ラアルカ知レヌト云フ御話デアリマシタガ、私共ガ調べマシタ所ニ依リマス、全體ヲ通ジテ少クモ恩給ノ六割ト云フモノガ、サウ云フ所謂金融業者、極端ニ言ヘバ高利貸ノ喰物ニナッテ居ル、是モ一ツ救済シナケレバナラヌノデアルカラ、速ニ國家ハ低利資金ヲ之ニ流用シテ、サウシテ恩給ヲ擔保ニスルマデニ苦シンデ居ル受給者ヲ救済スルノ考ハナイカ、又サウ云フ風ニ速ニヤッテ、是等ヲ救済シテ、此恩給者ヲ其恩典ニ浴セシムルヤウナ方法ヲ採ラルルノガ、當然ノ處置デヤナイカト云フコトヲ申シタノデアリマスガ、是ハ恩給局長——當局者モ無論其點ハ十分考慮シテ居ルト云フコトデアッタ、デアルカラ早晩ハ實現サレルコト、私共ハ信ジテ居ルノデアリマス、更ニ委員長ガ矢張報告ニナリマシタヤウニ、恩給ノ辭退デアリマス、是モ是マデ辭退ト云フコトハ、事實ハ無カッタケレドモ、顯著ナル例ハ、乃木大將ガ二人ノ御子様ヲ

亡クサレマシテ、扶助料ガ來ベキ所ヲ、殊更ニ之ヲ御受ケニナラナカッタ、サウシテ恩給ヲ受ケル、所謂受給權ヲ喪失サシテ、其扶助料ヲ國庫ニ歸屬セシメタト云フヤウナ話ガアルノデアリマスルガ、獨リ乃木大將ニ限ラズ、斯ノ如キ所謂恩給ヲ國庫ニ歸屬セシメタ人ガ多數アル、アルケレドモ、是ガ如何ニモ喪失——居所ガ不明ニナッテ恩給ヲ受取ラナカッタカノ如ク、或ハ怠慢ニ依ッテ其受給期間ヲ喪失シタカノ如ク、是等ノ者ト同一視サレテ、是等ノ國家ニ對スル奉公心ト申シマスカ、是等ノ美譽ガ闇カラ闇ニ葬ラレルヤウナ結果ニナッテ居ル、デアルカラ斯様ナ人ニ對シテハ、恩給ヲ正式ニ辭退スルノ法規ヲ設ケテ、サウシテ之ヲ一般財源ノ或ハ補給ニ充テ、或ハ下級受給者ニ厚クスル費用ニ之ヲ當テルノガ當然デハナイカト云フ主張ヲ致シタノデアリマス、致シタノデアリマスルガ、是モ色々弊害ガアル、弊害ハ扶助料ニ付テハナイカ、通常恩給ニ付テハナイカト云フ討論モ致シタノデアリマスガ、兎ニ角其御意思ハ拜承スルガ、之ヲ實行致シマスコトニ付テハ、色々弊害ガアルノデアルカラト云フコトデ、是モ用ヒラレナカッタノデアリマス、其結果ト致シマシテ、吾々ノ相當主張致シマ

シタコト、國民ノ希望ノ大部分ト云フモノガ、此規定ニ現ハレテ居リマセスト同時ニ、吾々ノ附帶決議、吾々ノ修正案ト云フモノガ、此案ニ實現サレナカッタト云フコトハ洵ニ遺憾デアリマスガ、委員長ガ報告致シマシタヤウニ、一ツハ附帶決議ト致シ、一ツハ希望條項ト致シテ、政府ノ再ビ改正ヲ俟ツト云フコトニスルノ外ハナカッタノデアリマス、而シテ吾々ノ考カラ致シマスルト云フト、現在恩給ノ受給者ガ凡ソ四十五万人カラアッテ、年額一億四千七百萬圓モ要ッテ居ル、累年恩給ガ凡ソ四百萬圓、或ハ四百五十萬圓増加ノ趨勢ヲ迎ッテ居ル、而モ昨年ハ滿洲事變ガアリマシタルガ爲ニ、五百八十萬圓モ殖エテ居ル、是ガ此改正ニ依ッテ、數年ノ後ニハ此累増ノ傾向ハ止ッテ、五十六年ノ後ニハ止マルノデアルカラ、十年ノ後ニハ或ハ四五百萬圓ノ餘裕ガ——餘剰ガ出來ルノデアルト云フヤウナコトヲ、政府ハ御辯明ニナッタノデアル、率カラ申スト云フト、私共ノ調査致シタ所ニ依リマス、云フト、毎年百分ノ二・五位殖エテ居ル、而モ色々法律、規定ガ玆ニ制定サレ、或ハ國力ノ進展ニ依ッテ色々役所ガ殖エ、事務ガ殖エルノデアリマスカラ、文官ニ致シマシテモ、ドン／＼其數ハ殖エテ居ル、又滿洲

事件ニ付キマシテモ、數箇師團ガ滿蒙ニ駐在致シテ居リマスガ、是モ或ハ可ナリ半永久的ニ此處ニ駐在サスルノ必要ガアルノデハナイカト云フコトヲ思ヒマスルト、文武官ヲ通ジテ是ハ非常ニ殖エル傾向ガアル、隨テ恩給毛殖エザルヲ得ナイ趨勢ヲ辿テ居ルト云フコトハ明瞭ナコトデアル、果シテ政府ノ言フ如ク、數年ニシテ此恩給ノ累増ガ止ツテ、十年後ニナリマシテ、數百萬圓ノ餘剩ヲ得ルト云フ政府ノ聲明ガ、實現出來ルカドウカラ政府ニ確メタノデアリマシガ、是ハ必ズヤツテ御目ニ懸ケルカラ、吾等ノ聲明ヲ信賴シテ吳レト云フコトデアリマスカラ、其政府ノ聲明ニ信賴シ、以上委員長ノ報告サレマシタヤウニ、希望決議、希望條項、六個ノ希望條項ヲ附シテ、之ニ贊成スルコトニ致シタノデアリマス、簡單ニ自分ノ所信ヲ披瀝致シマス(拍手)

○議長(秋田清君) 山柈儀重君

(山柈儀重君登壇)

○山柈儀重君 只今議題トナツテ居リマスル恩給法中改正法律ノ委員長ノ報告ニ贊成ヲ致ス者デアリマス、此度ノ改正案ハ、政府ニ於テ、凡ソ民間ニ於テ從來恩給法ヲ改正スベシト云フ議論ノアリマシタル點ヲ、

殆ド大部分採用シテ居ラレルノデアリマス、即チ恩給年限ノ延長デアルトカ、或ハ國庫納付金ノ増額デアルトカ、或ハ多額所得者ノ恩給ノ一部停止デアルトカ、或ハ相當年齡ニ達スルマデ恩給ノ一部ヲ停止スルトカ、其他種々ナル問題ヲ擧ゲテ居ラル、ノデアリマスケレドモ、其擧ゲラル、所ガ比較的の不徹底デアツテ、其目的ヲ十分ニ達シテ居ラナイノデアリマス、隨テ豫算ノ上カラ申シマスルト、平年度ニ於テ減額スベキ額ハ僅ニ五百万圓ニ過ギナイノデアリマス、而モ額ガ少額デアアルノミナラズ、尙ホ此恩給法ノ中ニハ、下級者ニ厚ク上級者ニ薄クシナケレバナラヌ部分モアリマスルニ拘リマセズ、ソレ等ノ點ニ手ヲ著ケテ居ラレナイノデアリマス、殊ニ傷痍軍人ノ恩給或ハ一時賜金等ニ關シマシテ、其權衡ヲ失スルモノガ相當ニアルノデアリマス、一例ヲ申上ゲマスレバ、一眼ヲ失ヒマシタ下士ノ恩給ハ四百何圓デアリマス、然ルニ兩眼ヲ失ヒマシタル下士ノ恩給額ハ九百何圓デアリマシテ、二倍強ニシカ過ギナイノデアリマス、一眼ヲ失ツタコト、兩眼ヲ失ツタコト、ノ不便ハ、決シテ一ト二トノ比ノ程度デハナイノデアリマス、其他斯様ナ、之ニ類スル點ガ多々アルノデアリマシテ、是等

ノ點ヲ更ニ再檢討セラル、コトガ必要デアルト思フノデアリマス、故ニ私共ハ茲ニ附帶決議ヲ附シテ、是等ノ點ヲ更ニ根本的ニ考究セラレテ、又吾々ノ附シマシタル希望條項ヲモ能ク研究セラレマシテ、次ノ機會ニ於テ一切ノ是等ノ問題ヲ解決セラレンコトヲ希望致シマシテ、本案ニ贊成致スノデアリマス(拍手)

○議長(秋田清君) 後藤亮一君

(後藤亮一君登壇)

○後藤亮一君 只今議題トナツテ居リマスル恩給法ノ改正ニ對シマシテハ、委員長ノ報告ニ贊成スル者デアリマス既ニ宮澤、山柈兩君ヨリ之ニ贊成ノ趣旨ヲ述べラレタノデアリマスルカラ、再び繰返スコトハ致シマセヌ、唯、簡單ニ贊成ノ意見ヲ少シ述べテ見タイト思ヒマス

今回ノ恩給法ノ改正ニ於キマシテ、吾々ガ頗ル遺憾ト考ヘマシタ點ハ、久シク恩給法ノ改正ガ叫バレ、或ハ又一面ニ於テ財政的ニ、我國トシテハ恩給ガ非常ニ増大スルト云フコトハ、國民ガ齊シク憂慮致シテ居ッタ所デアリマス、然ルニ今回ノ改正ヲ見マスルト、單ニ事務的改正デアリマシテ、國家トシテ國策ト云フ大局カラ之ヲ見テノ改正ガシテナイト云フコトニ對シテハ、吾

吾頗ル遺憾ヲ感ズルノデアリマス(拍手)恩給法ノ適當デアアルカ否ヤト云フコトハ、國家組織ノ上ニ於ケル所ノ一大問題デアリマス、而モ斯様ニ年々増加致ス傾向ニアリマシテハ、ドウシテモ之ヲ國策トシテ十分ナ檢討ヲ行ウテ、大改革ヲ施スベキ必要ガアルト痛感スルノデアリマス、是ナキコトハ今回ノ改正ニ於テ、吾々ノ頗ル遺憾ト致シタ所デアリマス、尙ホ其他ノ點ニ付キマシテハ、既ニ他ノ委員諸君ヨリ申サレマシタ通り、非常ニ下級者ニ薄クシテ、高級者ニハ益、厚イト云フ感ガアツテ、而モ此點ニ更ニ改正ガ加ヘラレテ居ラヌト云フコトハ、吾々ノ重ネテ遺憾トスル所デアリマス(拍手)其身ヲ砲火ノ巷ニ入レマシテ、サウシテ名譽アル戦死ヲ遂ゲ、或ハ負傷ヲ致シタ、斯ウ云フ下級ノ軍人ニ對スル恩給トカ、或ハ其遺族ニ對スル扶助料ガ非常ニ少クシテ、今ヤ折角國家ガ恩給ヲ出シテ居リナガラ、是等受給者ハ寧ロ國家ヲ怨シデ居ル程ニ悲痛ナ叫ヲ擧ゲテ居ルト云フコトハ、是レ諸君ノ御承知ノ通りデアリマス、今ヤ我國ノ思想問題カラ考ヘマシテモ、非常ニ増稅力ノアル所ノ富豪階級或ハ大資本家ガ、一面ニ於テ脫稅ヲシテ居ルヤウナコトヲ見逃サレテ居ルノニ、一面ニハ斯ノ如キ悲痛ナル境遇ニアル人ニ

對シテ、多クノ同情ノ濫ガレナイト云フコトハ、將來思想問題ノ上ニモ相當ノ影響アルコトヲ、吾々ハ考ヘナケレバナラスノデアリマス(拍手)併ナガラ曩ニ委員諸君ガ申サレマシタルガ如ク、非常ニ改正ノ技術ガ難カシイ爲ニ、容易ニ吾々ガ之ヲ修正シ得ナカッタノデアリマスルガ、只今ノ附帶決議及希望條件ハ、吾々ガ修正ヲシタモノト考ヘテ、政府當局ハ誠意ヲ以テ是ガ實現ヲシテ實ヒタイト云フ希望ヲ附シマシテ、此案ニ贊成ヲスル所以デアリマス(拍手)

○議長(秋田清君) 討論ハ終局致シマシタ、本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○上田老吉君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

恩給法中改正法律案

第二讀會(確定議)

○議長(秋田清君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)——日程第二十八、少年教護法案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長牧野賤男君

第二十八 少年教護法案(荒川五郎君外六十六名提出)

報告書

第一讀會ノ續(委員長報告)

一 少年教護法案(荒川五郎君外六十六名提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和八年三月七日

委員長 牧野 賤男

衆議院議長秋田清殿

〔別紙〕

少年教護法

第一條 本法ニ於テ少年ト稱スルハ十四歳ニ滿タザル者ヲ謂フ

第八條第一項第二號ノ場合ニ於テハ其ノ年齢ヲ十八歳未滿トス

第二條 北海道及府縣ハ少年教護院ヲ設置スベシ

前項少年教護院ノ數及收容定員ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

國ハ必要ノ場所ニ少年教護院ヲ設置ス

國立教護院ニハ教護事務ニ従事スル職員養成所ヲ附設スルコトヲ得

第三條 少年教護院ニ於ケル教護ノ本旨、教科、設備及職員ニ關スル事項ハ

勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 道府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ

少年鑑別機關ヲ設置スルコトヲ得

第五條 道府縣ノ設置スル少年教護院及

少年鑑別機關ハ地方長官、國立少年教護院ハ内務大臣之ヲ管理ス

第六條 道府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ

少年教護ノ爲少年教護委員ヲ置クベシ

第七條 國道府縣ニ非ザル者本法ニ依リ

教護ヲ目的トスル少年教護院ヲ設置セントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第八條 地方長官左記各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ之ヲ少年教護院ニ入院セシムベシ

一 少年ニシテ不良行爲ヲ爲シ又ハ不良行爲ヲ爲ス虞アリ且適當ニ親權又

ハ後見ヲ行フモノナキ者

二 少年ニシテ親權者又ハ後見人ヨリ入院ノ出願アリタル者

三 少年審判所ヨリ送致セラレタル者

地方長官ハ前項第一號及第二號ニ該當スル者ニ對シ前項ノ處分ノ外適當ナル施設若ハ家庭ニ委託シ又ハ少年教護委員ノ監督ニ付スルコトヲ得

第九條 内務大臣ハ前條第一項第一號又ハ第二號ニ掲グル者左記各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ國立教護院ニ入院セシムルコトヲ得

一 性狀特ニ不良ニシテ地方長官ヨリ入院ノ申請アリタル者

二 前號ニ該當セズト雖特ニ入院ノ必要アリト認メタル者

第十條 地方長官必要アリト認ムルトキハ少年教護院ヲ退院シタル者ニ對シ適當ノ保護監督ヲ行フベシ

第十一條 内務大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ前三條ノ處分ヲ解除シ又ハ變更スルコトヲ得

第十二條 第八條乃至第十條ノ規定ニ依ル處分ハ其ノ處分ヲ受クル者滿二十歳ニ達スル迄之ヲ繼續スルコトヲ得

第十三條 學校長、市町村長、少年教護

委員又ハ警察署長第八條第一項第一號ニ該當スル者アリト認ムルトキハ之ヲ地方長官ニ具申スベシ

第十四條 地方長官、警察署長又ハ市町村長必要アリト認ムルトキハ第八條第一項第一號ニ該當スル者ノ處分決定ニ至ル迄一時保護ノ爲適當ナル施設若ハ家庭ニ委託スルコトヲ得仍警察署長ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ五日ヲ超エザル期間假ニ留置ヲ爲スコトヲ得

前項ニ依リ警察署長ニ於テ行フ留置ハ他ノ收容者ト分離スベシ

第十五條 少年教護院長ハ在院者ニ對シ親權ヲ行フ但シ親權者又ハ後見人アル者ノ財産管理ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ第十六條 內務大臣又ハ地方長官ハ本人又ハ扶養義務者ヨリ在院委託及一時保護ニ要シタル費用ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

前項費用ノ徵收ハ必要ニ應ジ納付義務者ノ居住地又ハ財産所在地ノ地方長官又ハ市町村長ニ之ヲ囑託スルコトヲ得第一項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セザル者アルトキハ國稅徵收法ノ例ニ依リ處分スルコトヲ得

第十七條 第八條乃至第十一條ノ處分ヲ受ケタル者ノ親族又ハ後見人ハ入院後六箇月ヲ經過シタル場合其ノ處分ノ解除又ハ變更ヲ內務大臣又ハ地方長官ニ出願スルコトヲ得

第十八條 第八條第九條第十一條又ハ第十六條第一項及第三項ノ處分ニ不服アル者及前條ノ出願ヲ許可セラレザル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十九條 道府縣ノ設置スル少年教護院及少年鑑別機關第十條ノ保護監督少年教護委員一時保護及地方長官ノ爲シタル委託ニ關スル費用ハ道府縣ノ負擔トス

市町村長第十四條ノ一時保護ヲ爲シタルトキハ其ノ費用ハ市町村費ヲ以テ一時之ヲ立替フベシ

第二十條 國庫ハ前條第一項ノ規定ニ依ル道府縣ノ支出ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ四分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス第七條ノ規定ニ依リ認可セラレタル少年教護院ノ支出ニ付亦前項ヲ適用ス

第二十一條 第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル少年教護院ノ用ニ供スル土地建物ニ對シテハ地方稅ヲ課セズ但シ有料ニテ之ヲ使用セシメタル者ニ對シテ

ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 內務大臣及地方長官ハ第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル少年教護院ヲ監督シ之ガ爲必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 第七條ノ規定ニ依リ認可セラレタル少年教護院本法若ハ本法ニ基キ發スル命令又ハ認可ノ條件ニ違反シタルトキハ內務大臣ハ認可ヲ取消スコトヲ得

第二十四條 少年教護院長ハ在院中所定ノ教科ヲ履修シ性行改善シタル者ニ對シテハ其ノ退院後ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタル者ト認定スルコトヲ得但シ少年教護院ノ教科ハ小學校令ニ遵據シ文部大臣ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ認定ヲ受ケタル者ハ他ノ法令ノ適用ニ關シテハ小學校ヲ卒業シタル者ト看做ス

第二十五條 本法中町村又ハ町村費トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在テハ之ニ準ズベキモノトス

第二十六條 少年ノ教護處分ニ付セラレタル事項ハ之ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ三月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム感化法ハ之ヲ廢止ス少年法ニ依リ保護處分ノ實施セラレザル地區ニ限リ第一條第一項ノ年齡ハ之ヲ十八歲未満トス

本法施行ノ際現ニ存スル國立感化院及道府縣立感化院ハ之ヲ本法ニ依リ設置シタル少年教護院ト看做シ其ノ在院者ハ之ヲ本法ニ依リ入院セシメラレタルモノト看做ス

本法施行ノ際現ニ存スル代用感化院ハ之ヲ第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル少年教護院ト看做シ其ノ在院者ニシテ感化法第五條ノ規定ニ依リ入院セシメラレタルモノハ之ヲ本法ニ依リ入院セシメラレタルモノト看做ス

本法施行ノ際道府縣立感化院ノ設置ナキ道府縣ハ本法施行ノ日より五年以内ニ少年教護院ヲ設置スルコトヲ要ス

〔牧野賤男君登壇〕

○牧野賤男君 少年教護法案ニ付キマシ

テ、委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ去ル一月二十八日特別委員會ニ付託セラレマシテ、藤山貞吉君、中野勇治郎君、松田正一君方理事ニ當選致シマシテ、不肖私ガ委員長ノ任ニ當リタノデアリマス、委員諸君ト共ニ熱心ニ研究討議ノ結果、茲ニ該法案ヲ修正可決ノ御報告ヲ致スノデアリマス

現時經濟界ノ窮迫ト、思想界ノ險惡トハ、各方面ニ於キマシテ少年ニ惡影響ヲ及ボシマシテ、教育ノ普及發達ニ逆比例ヲ致シマシテ、不良化少年ノ激増、跳梁ヲ見テ居ルノデアリマス、此不良ノ少年ノ保護教育ヲ完ウシテ、之ヲ救済致シマスルコトハ、一ハ人道ニ必要ノコトデアリ、又一ハ之ヲ未然ニ防ギマシテ、將來ノ犯罪者ヲ少カラシメ、以テ國家社會ノ治安ヲ維持スルト云フコトハ、最モ急務デアルト存ジマス、然ルニ現行感化法ハ、公布セラレテヨリ三十餘年ノ久シキニ及ブノデアリマスガ、其間ニ明治四十一年及大正十一年ノ二回ニ、多少ノ改正ガアリマシタガ、未ダ以テ時代ノ推移、社會ノ進歩ニ伴フ本質的ノ改善ガナイノデアリマス、斯ノ如クニ致シマシテ、教育可能性ニ富ム所ノ學齡兒童期ニ於ケル、最モ大切ナル不良化防止ノ施設ニ對シテ、理會ト用意ヲ缺イテ居リマシテ、依然トシテ昔

日ノ如クデ、深ク遺憾ヲ感ジテ居ル現今ノ有様デアリマス、此不便、不利ヲ補ハンガ爲ニ、本法案ハ提出セラレタノデアリマス、本案ハ數回ノ委員會ヲ開キマシテ、關係者ノ懇談會ヲ致シ、政府當局ノ出席ヲ求メテ其意ノ在ル所モ質シ、更ニ小委員ニ付託致シマシテ、中野勇治郎君、星島二郎君、犬養健君、中野種一郎君、荒川五郎君、山折儀重君、栗原彦三郎君ノ七名ノ方ニ御願ヲ致シマシテ、小委員案ヲ作タノデアリマス、豫テ書面ヲ以テ諸君ニ御報告ヲ致シマシタ小委員案ハ、委員會ニ於テ滿場一致可決致シタ次第デアリマス、政府ノ意見ハ、内務省ニ於キマシテハ本案ノ趣意ニハ賛成スルガ、財政的ニ多少考慮ノ餘地ガアルト云フノデアリマス、司法省ニ於テハ、少年法ノ領域ヲ侵ス虞ガアルト云フコト、其他本案適用ニ付テ多少ノ意見ガアテ、結局反對ノ意向デアッタノデアリマス、然ルニ小委員會ニ於キマシテハ、内務省ノ意向モ、司法省ノ意向モ、之ヲ取入レテ修正致シタノデアリマスルカラ今日ニ於テハ政府ニ於テモ、恐クハ大ナル反對ハナカラウト考ヘルノデアリマス、以上ノ次第デアリマシテ、滿場一致委員會ニ於テ可決致シタ次第デアリマスカラ、ドウゾ滿堂ノ諸君ノ御賛成ヲ願フノデアリマス

○議長(秋田清君) 討論ヲ許シマス——荒川五郎君

○荒川五郎君 極メテ簡單デアリマスカラ當席ヨリ發言ノ御許シヲ願ヒマス

○議長(秋田清君) 簡單デアレバ宜シウゴザイマス

○荒川五郎君 凡ソ世間デ不良化少年ト云ヒ、又惡青年ト云ヒ、或ハ大人ノ犯罪者等、社會ニ不安損害ヲ與ヘ、又國家ノ厄介者トナル彼等ノ多クハ、果シテ憎ムベキ不良罪惡ノ者バカリデハナイノデアリマスガ、人間ノ心理、生理等ノ研究ガ足ラナイ所ガアル爲メヤ、或ハ一般家庭ヤ、社會環境ノ狀態ナドカラ、斯様ナ不幸ニ陥リ、罪惡人トセラル、ヤウニナツタ者ガ、隨分少クナイト思フノデアリマス、隨テ之ヲ感化教育スルト云フコトハ、普通ノ教育スラ中々困難デアルノニ、斯様ニ拗ネタリ、歪ンダリ、曲ッタリシタ者、不良化ノ者等、ソレ等ノ者ヲ善良ナ人間ニ矯正スト云フコトハ、中々容易デナイノデアリマシテ、此事業ニ從事致ス者ハ、温情熱愛ヲ以テ、一生涯ヲ此憫ムベキ不幸ノ者ニ捧ゲル決心ガナクテハ、決シテ出來得ナイ事業デアリマス、隨テ今日實際ニ此方面ニ努力シテ居ル人々ハ、實ニ感激ニ値スベキ人物ガ少クナイノデアリマス、幸ヒ此度提案致シマシタ感化法ノ改正案タ

ル少年教護法案ハ、此趣旨ニ於テ是等人々ノ活動努力スベキ十分ノ餘地ヲ認メテ立案シタモノデアリマスガ、此度委員會ニテ、更ニ適當ナ修正ヲ與ヘラレマシテ、只今委員長ノ報告ノ通りニナリマシタト云フコトハ、洵ニ社會淨化ノ爲メ、人類愛ノ爲メ、國家公安、國民ノ幸福ノ爲ニ感謝ニ堪ヘナイ次第デアリマス

諸君等シク 陛下ノ赤子デアリナガラ、前申上ゲルヤウニ、家庭ヤ環境、友人ヤ又社會ヤ、竝ニ一身生理ノ缺陷等ニ依ッテ、斯様ナ不遇ニ逐レタル、是等不幸ノ少年ヲシテ、溫キ聖代ノ餘澤ニ浴サシメ、善良ナル、役ニ立ツ、國民ノ伍伴ニ還ラセテ、彼ノ村ニ不學ノ徒ナカラシムルト云フ理想ヲ徹底シテ、更ニ巷ニ不良ノ兒ナカラシムルヤウニ致スコトハ、常ニ德化ヲ宣給フ上陛下ノ聖旨ニ副ヒ奉ル所以デアルノミナラズ、國家社會ノ治安幸福ノ爲ニモ、斷ジテ忽セニスベカラザル國家ノ重大事デアリマシテ、之ニ依ッテ社會環境ヲ善クシ、街頭ヲ淨化スルコトハ、普通ノ兒童青年ニ、廣イ愉快ナ自由ナ社會ヲ與ヘテ、彼等ヲシテ善良ナ社會性ヲ養ハシムル上ニモ、極メテ大切ナコト、確信致ス次第デアリマス、希クハ滿堂諸君ノ御配慮ニ依ッテ、速ニ此案ガ成立スルノミナラズ、更ニ此不

遇ナル多數ノ者ニ同情ヲ與ヘ、社會不安ヲ

除キ、國家ノ幸福ヲ爲ス上ニ、一段ノ御配

慮ヲ切ニ希望スル次第アリマス、謹デ一

言感謝ノ意ヲ添ヘ賛成ノ意ヲ表シマス

○議長(秋田清君) 本案ノ第二讀會ヲ開ク

ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマ

ス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○上田孝吉君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開

キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通

リ可決セラレンコトヲ望ミマス

〔賛成〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議

アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、

仍テ直チニ第二讀會ヲ開キマス、議案全部

ヲ議題ト致シマス

少年教護法案 第二讀會(確定議)

○議長(秋田清君) 別ニ御發議モアリマセ

ヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通リ

可決確定致シマシタ(拍手)

○上田孝吉君 殘餘ノ日程ヲ延期シ、今日

ハ是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス

〔賛成〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議

アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ動議ハ可決セラレマシタ、次會ノ

日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日ハ

是ニテ散會

午後四時三十六分散會

衆議院議事速記録第二十三號中正誤

頁 段 行 誤

四九二 三一五 掃討

掃蕩

